

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2012 年冬のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 25 弾～

2013 年 1 月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

目 次

■ 調査概要	1
■ 調査結果	5

I この冬のボーナス

1. この冬のボーナスの手取り額	6
2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較と増減理由	8
3. この冬のボーナスは、予想していた金額と比べてどうだったか	9
4. ボーナスをどの程度あてにしているか	10
5. ボーナスの今後の見通し	12
6. 今回のボーナスの主な使い道	13
7. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額	17
8. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	19
9. 今年の冬のボーナスを「川柳」にすると	22

II わが家の家計

1. 家計についての現状認識	24
2. 今後の家計の見通しとその理由	26
3. 世帯の預貯金残高の増減	28
4. 今年1年間にいくらぐらい預貯金をしたか	31

III わが家の生活防衛策

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	33
2. 2013年の家計は“攻めていこう”と思うか、“守っていこう”と思うか	45
3. 2013年の家計支出に関して、どんな方針で臨むか	46
4. この冬、食費を切り詰めるための節約食材、節約メニュー	49
5. 「施設無料見学」の利用経験	51

IV 将来のことについて

1. 夫に何歳まで働いてもらいたいのか	54
2. 夫が60歳以上になった時、どのくらいの頻度で働いてほしいか	55
3. 夫がリタイアした後の「夫婦の夢」	57

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

25回目となる今回は、2012年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の 20 歳から 59 歳の主婦 500 人

< サンプル配分 >

合計	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法 インターネット調査

(3) 調査時期 平成 24 年 12 月 8 日（土）～12 月 12 日（水）

(4) 調査項目

- ・この冬のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額と増減理由
- ・ボーナス手取り額の予想との差
- ・ボーナスをどの程度あてにしているか
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・今年の冬のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・2013 年の家計についての方針
- ・日頃利用している「節約食材」と「自慢の節約料理」
- ・無料の工場・社会見学の経験と、今後見学してみたいもの
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・今年 1 年間にした預貯金と、預貯金残額の増減
- ・夫に何歳まで働いてもらいたいのか
- ・夫がリタイアした後の「夫婦の夢」
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

F1. 妻の年齢

（平均：39.7 歳）

サンプル数	20～ 24 歳	25～ 29 歳	30～ 34 歳	35～ 39 歳	40～ 44 歳	45～ 49 歳	50～ 54 歳	55～ 59 歳
500	11	114	58	67	76	49	88	37
100.0	2.2	22.8	11.6	13.4	15.2	9.8	17.6	7.4

F2. 妻の職業

サンプル数	正規有 職(正社 員・公務 員・自営 業)	パート	専業 主婦
500	99	122	279
100.0	19.8	24.4	55.8

F3. 夫の年代

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳 以上
500	85	137	140	138
100.0	17.0	27.4	28.0	27.6

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職 なし	係長・ 主任 クラス	課長 クラス	部長 クラス 以上
500	231	137	85	47
100.0	46.2	27.4	17.0	9.4

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・ 農林・ 鉱業	建設業	製造業	電気・ ガス業	運輸・ 情報 通信業	商業	金融・不 動産・サ ービス 業
500	8	31	245	17	61	47	91
100.0	1.6	6.2	49.0	3.4	12.2	9.4	18.2

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦 のみ	夫婦と 子	3世 代・4 世代同 居	親夫婦 と子夫 婦・自分 たち夫 婦と親	その他
500	153	295	30	18	4
100.0	30.6	59.0	6.0	3.6	0.8

F7. 扶養中の子ども

サンプル数	いる	いない
500	273	227
100.0	54.6	45.4

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
500	214	17	113	136	20
100.0	42.8	3.4	22.6	27.2	4.0

F9. 住宅ローンの有無

サンプル数	ある	ない
500	234	266
100.0	46.8	53.2

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	57	153	126	81	83
100.0	11.4	30.6	25.2	16.2	16.6

F11. 居住地区

サンプル数	東日本	西日本
500	271	229
100.0	54.2	45.8

※東日本は北海道、東北、関東、甲信越及び静岡。

※西日本は愛知、岐阜、近畿（三重を含む）、北陸、中国、四国、九州及び沖縄。

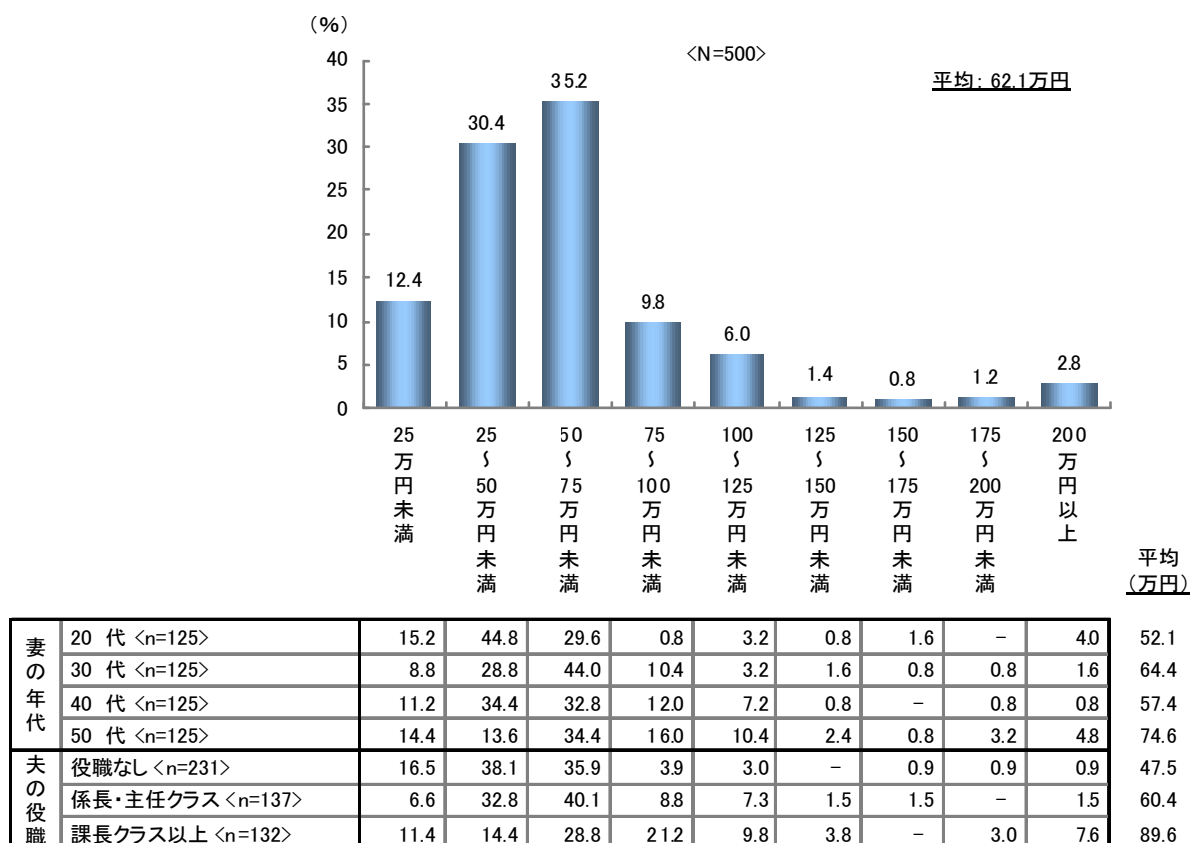
調査結果

I この冬のボーナス

1. この冬のボーナスの手取り額

この冬のボーナス平均受給額(手取り)は、平均「62.1 万円」。

図 1. この冬のボーナスの手取り額



※『この冬のボーナス』とは2012年冬に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

この冬のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。

「50～75 万円未満」(35.2%)、「25～50 万円未満」(30.4%) がともに3割台で多く、合わせて「25～75 万円未満」が3分の2近く(65.6%)を占めています。以下、「25 万円未満」(12.4%)、「75～100 万円未満」(9.8%) などが続き、平均は「62.1 万円」となっています。

・妻の年代別に受給額の平均をみると、上の年代ほど金額は高く、《50代》(74.6 万円)では《20代》(52.1 万円)よりも20万円以上高くなっています。

・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》47.5 万円、《係長・主任クラス》60.4 万円、《課長クラス以上》89.6 万円と大きな差がみられます。

- ・居住地区別にみると、平均は《東日本》（69.1 万円）の方が《西日本》（53.8 万円）よりも 15 万円以上高くなっています。

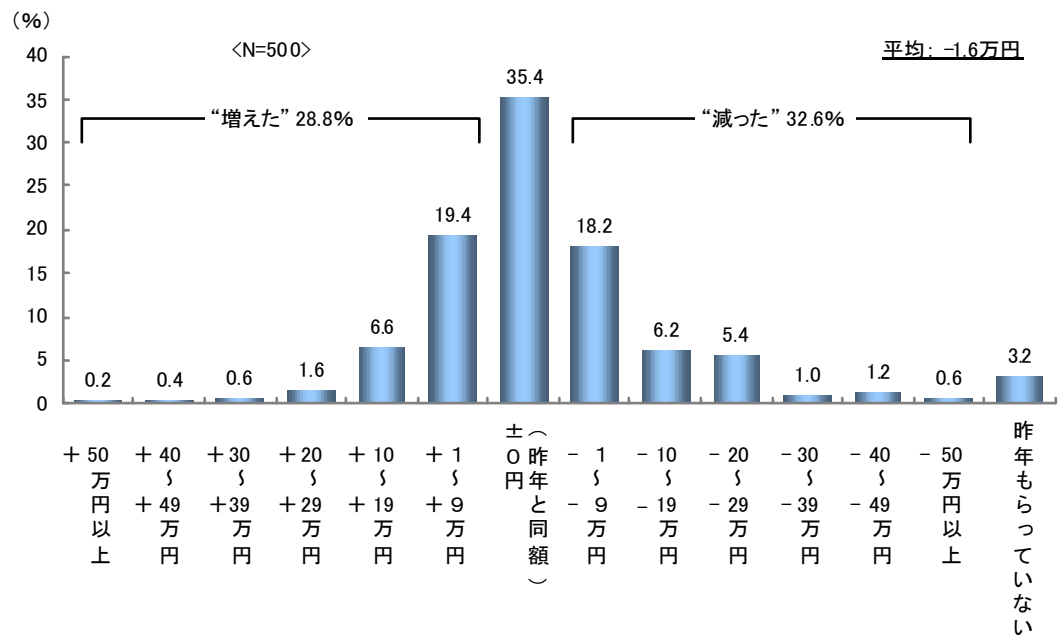
■昨冬の調査結果との比較■

平均額は昨冬「61.5 万円」→今冬「62.1 万円」とほとんど変わっていません。

2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較と増減理由

“増えた”(28.8%)よりも“減った”(32.6%)の方がやや多く、増減の平均も「-1.6万円」とやや減っている。

図 2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較と増減理由



妻の年代	20代<n=125>	-	0.8	-	1.6	12.0	28.0	32.8	16.0	2.4	1.6	-	-	0.8	4.0
	30代<n=125>	-	-	0.8	1.6	4.0	28.8	30.4	21.6	5.6	4.0	2.4	-	-	0.8
	40代<n=125>	-	-	0.8	0.8	6.4	11.2	40.8	22.4	5.6	4.8	0.8	3.2	-	3.2
	50代<n=125>	0.8	0.8	0.8	2.4	4.0	9.6	37.6	12.8	11.2	11.2	0.8	1.6	1.6	4.8
夫の役職	役職なし<n=231>	-	0.9	0.4	0.9	5.6	23.8	35.1	21.6	3.0	3.0	0.4	0.9	0.4	3.9
	係長・主任クラス<n=137>	-	-	-	1.5	9.5	18.2	37.2	16.8	7.3	6.6	0.7	0.7	-	1.5
	課長クラス以上<n=132>	0.8	-	1.5	3.0	5.3	12.9	34.1	13.6	10.6	8.3	2.3	2.3	1.5	3.8

この冬のボーナスは、昨年冬のボーナスと比べて増えたでしょうか、減ったでしょうか。

「+1～9万円」(19.4%)など“増えた”(28.8%)という人が3割弱で、「-1～9万円」(18.2%)など“減った”(32.6%)という方が少し多くなっています。増減の平均も「-1.6万円」とやや下がっています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えた”人の割合が高く、《20代》(42.4%)は《50代》(18.4%)の2倍以上の割合となっています。
- ・夫の役職別にみると、役職が下の人ほど“増えた”、上の人ほど“減った”人の割合が高く、《課長クラス以上》では“減った”(38.6%)の方が“増えた”(23.5%)を10ポイント以上上回っていますが、《役職なし》では“増えた”(31.6%)という方が“減った”(29.4%)よりも多くなっています。
- ・居住地区別では、《西日本》の方が“減った”(35.4%)という割合が《東日本》(30.3%)よりもやや高めです。

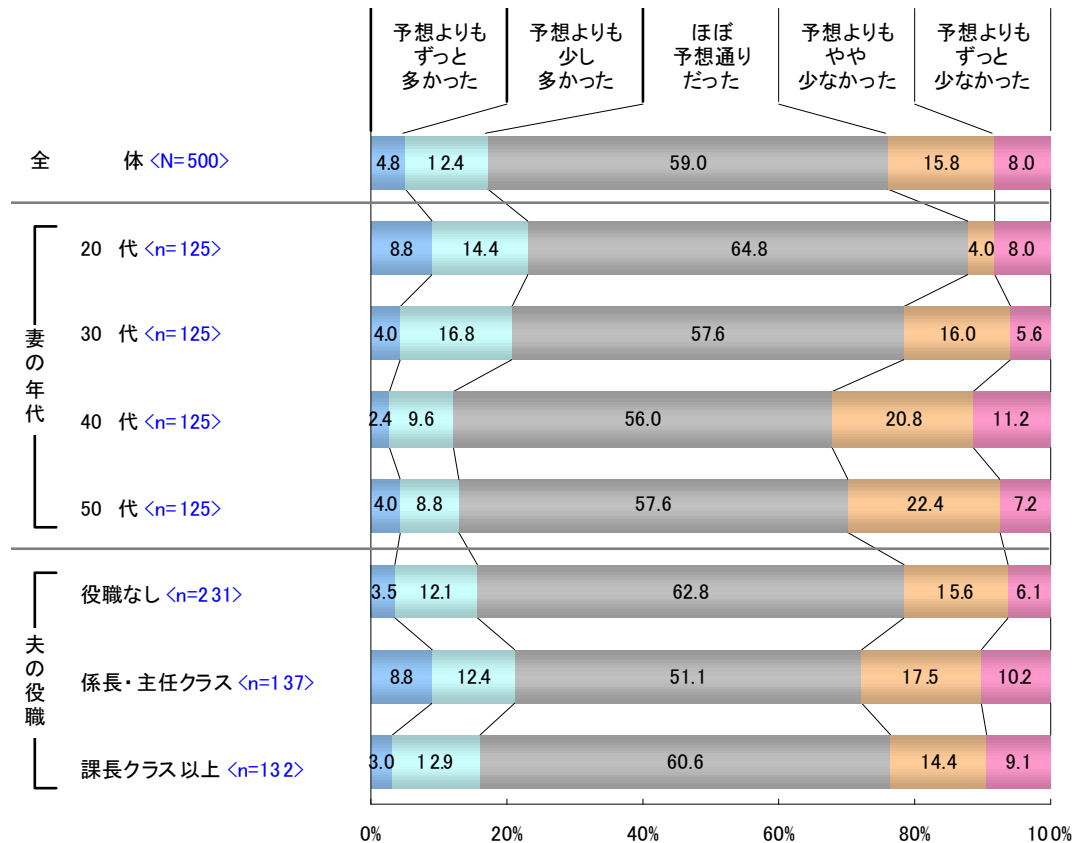
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“増えた”(31.8%→28.8%)がやや減り、“減った”(29.2%→32.6%)がやや増えた結果、増減の平均は「-0.8万円」→「-1.6万円」となり、減少傾向が昨冬よりも強くなっています。

3. この冬のボーナスは、予想していた金額と比べてどうだったか

「ほぼ予想通りだった」(59.0%)が多数を占めるが、“多かった”(17.2%)と“少なかった”(23.8%)とでは“少なかった”という方がやや多い。

図 3. この冬のボーナスは、予想していた金額と比べてどうだったか



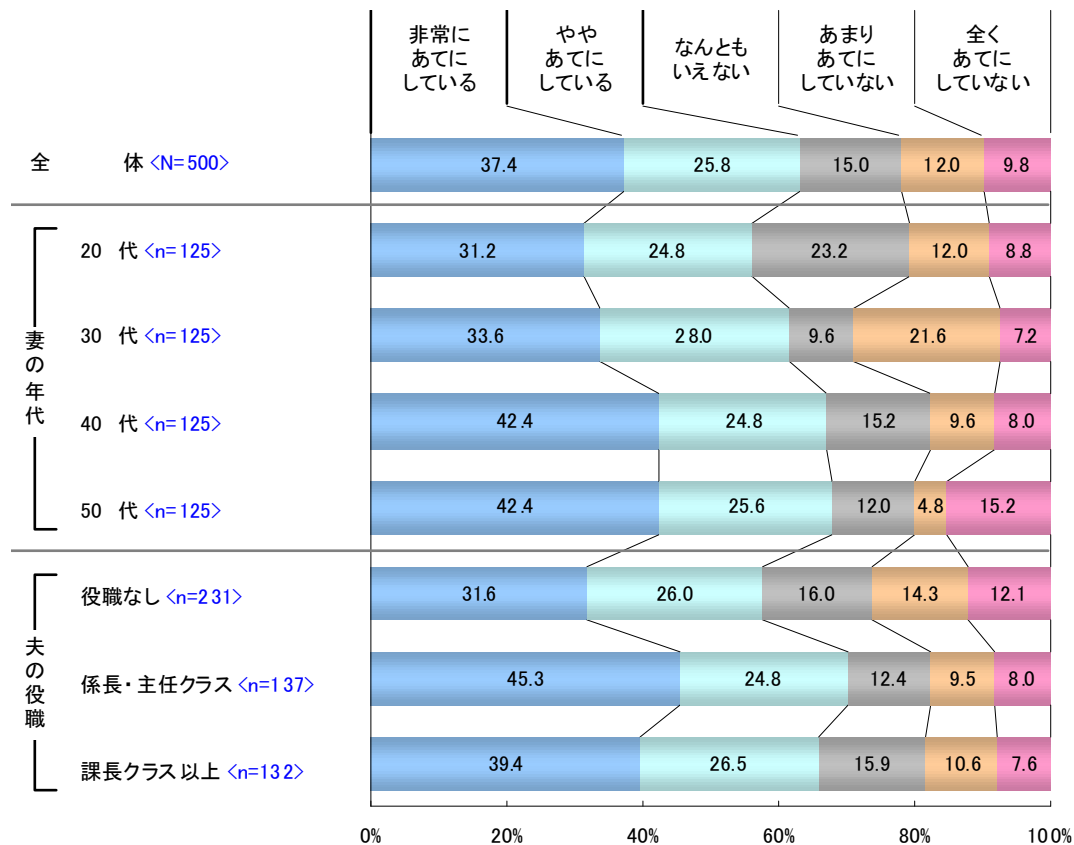
この冬のボーナスは、予想していた金額と比べてどうだったかをみると、「ほぼ予想通りだった」(59.0%)が6割近くと多数を占めています。「予想よりもずっと多かった」(4.8%)と「予想よりも少し多かった」(12.4%)を合わせた“多かった”(17.2%)と、「予想よりもやや少なかった」(15.8%)、「予想よりもずっと少なかった」(8.0%)を合わせた“少なかった”(23.8%)はともに2割程度ですが、“少なかった”という方がやや多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど“多かった”、上の年代ほど“少なかった”が多い傾向がみられ、《20代》では“少なかった”(12.0%)よりも“多かった”(23.2%)の方が多くなっていますが、《40代》(多かった12.0%、少なかった32.0%)、《50代》(同12.8%、29.6%)では“少なかった”の方がかなり多くなっています。
- ・夫の役職別では大きな傾向の差はみられません。

4. ボーナスをどの程度あてにしているか

“あてにしている”(63.2%)という回答が6割を超え、“あてにしていない”(21.8%)は2割程度と、ボーナスへの期待は大きい。

図 4. ボーナスをどの程度あてにしているか

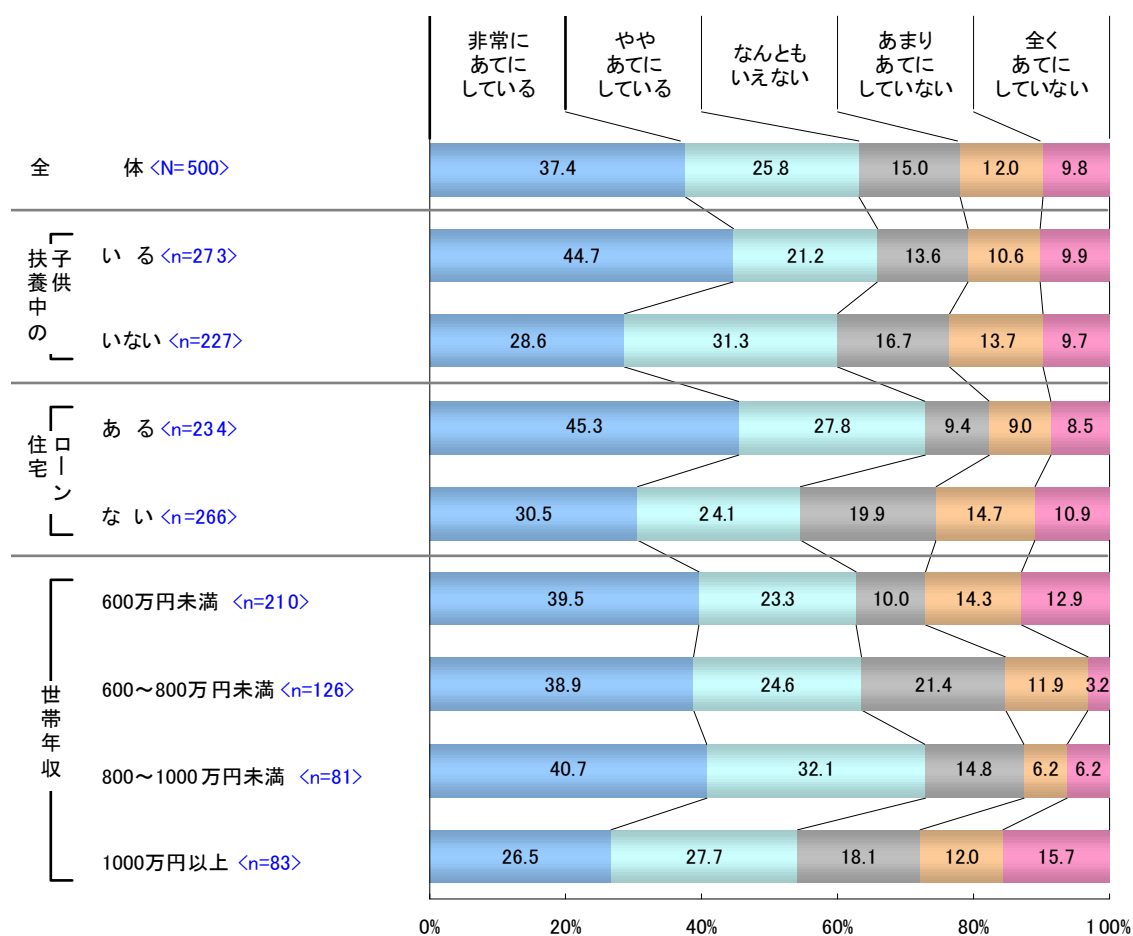


ボーナスをどの程度あてにしているかをみると、「非常にあてにしている」(37.4%)が3割台、「ややあてにしている」(25.8%)が2割台を占め、合わせて“あてにしている”(63.2%)という回答が6割を超えています。「あまりあてにしていない」(12.0%)、「全くあてにしていない」(9.8%)を合わせた“あてにしていない”(21.8%)は2割程度にとどまっており、ボーナスへの期待は大きいようです。

- 妻の年代別にみると、“あてにしている”割合は年代が上がるほど高く、《20代》(56.0%)では5割台なのに対し、《40代》(67.2%)、《50代》(68.0%)では7割近くに達しています。

- 夫の役職別にみると、《役職なし》の人で“あてにしている”(57.6%)とする割合が、《係長・主任クラス》(70.1%)、《課長クラス以上》(65.9%)に比べて低くなっています。

図 5. ボーナスをどの程度あてにしているか（扶養中の子供の有無別、住宅ローンの有無別、世帯年収別）

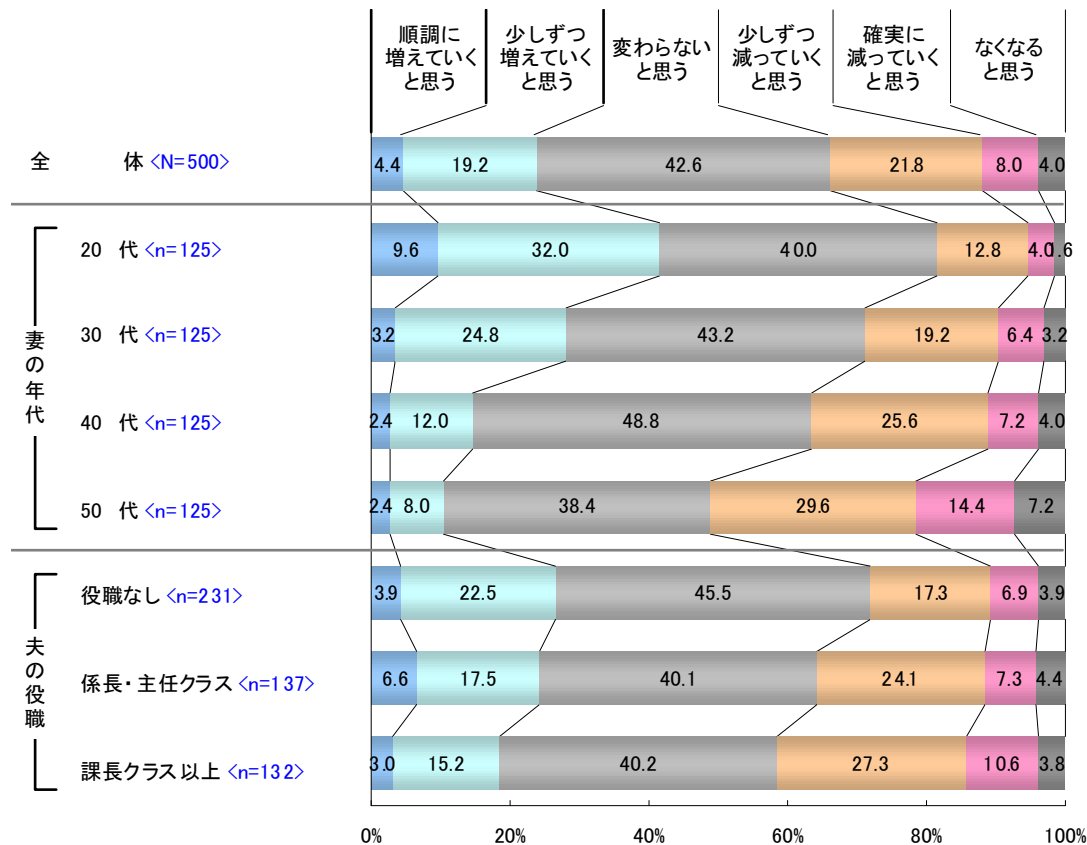


- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「非常にあてにしている」の割合は、扶養中の子供が《いる》（44.7%）人の方が、《いない》（28.6%）人よりもはるかに多く、ボーナスへの期待が大きくなっています。
- ・住宅ローンの有無別では、住宅ローンが《ある》人の方が《ない》人よりも、“あてにしている”（ある 73.1%、ない 54.6%）割合がかなり高くなっています。
- ・世帯年収別では、《1000 万円以上》の人で“あてにしている”（54.2%）割合が低いのが目立ちます。

5. ボーナスの今後の見通し

「変わらないと思う」(42.6%)のほかは、“増えていく”(23.6%)という楽観的な見通しよりも、“減っていく+なくなる”(33.8%)という悲観的な見通しの方が多い。

図 6. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、「変わらないと思う」が4割強(42.6%)を占めていますが、そのほかでは「順調に増えていくと思う」(4.4%)、「少しずつ増えていくと思う」(19.2%)を合わせた“増えていく”(23.6%)という楽観的な見通しよりも、「少しずつ減っていくと思う」(21.8%)、「確実に減っていくと思う」(8.0%)、「なくなると思う」(4.0%)を合わせた“減っていく+なくなる”(33.8%)という悲観的な見通しの方が多くなっています。

・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う(順調に+少しずつ)”という割合は高く、《40代》(14.4%)、《50代》(10.4%)では1割台ですが、《30代》(28.0%)では2割台、《20代》(41.6%)になると4割を超えています。

・夫の役職別にみると、役職が低いほど“増えていく”、高いほど“減っていく+なくなる”という回答が多くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

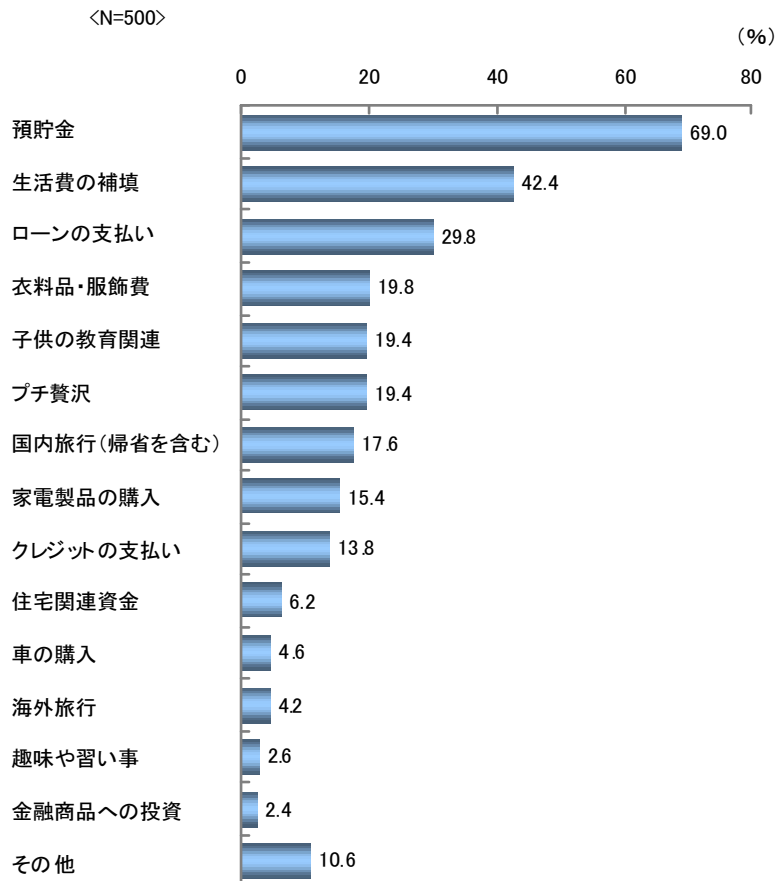
昨冬の調査結果と比べると、“増えていくと思う”(30.2%→23.6%)が減り、“減っていく+なくなると思う”(31.2%→33.8%)がやや増えており、昨冬よりも厳しいとみる人が多くなっています。

6. 今回のボーナスの主な使い道

「預貯金」(69.0%)が突出して多く、次いで、「生活費の補填」(42.4%)、「ローンの支払い」(29.8%)と“将来への備え”“家計のやりくり”に使う人が多い。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」(40.0%)が4割に達する。

図 7. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの主な使い道は、「預貯金」(69.0%)を7割近くの人があげて、突出して高い割合となっています。次いで、「生活費の補填」(42.4%)、「ローンの支払い」(29.8%)が続き、“将来への備え”“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。

以下は、「衣料品・服飾費」(19.8%)、「子供の教育関連」(19.4%)、「プチ贅沢」(19.4%)、「国内旅行(帰省を含む)」(17.6%)、「家電製品の購入」(15.4%)、「クレジットの支払い」(13.8%)といった使い道があげられています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

(%)

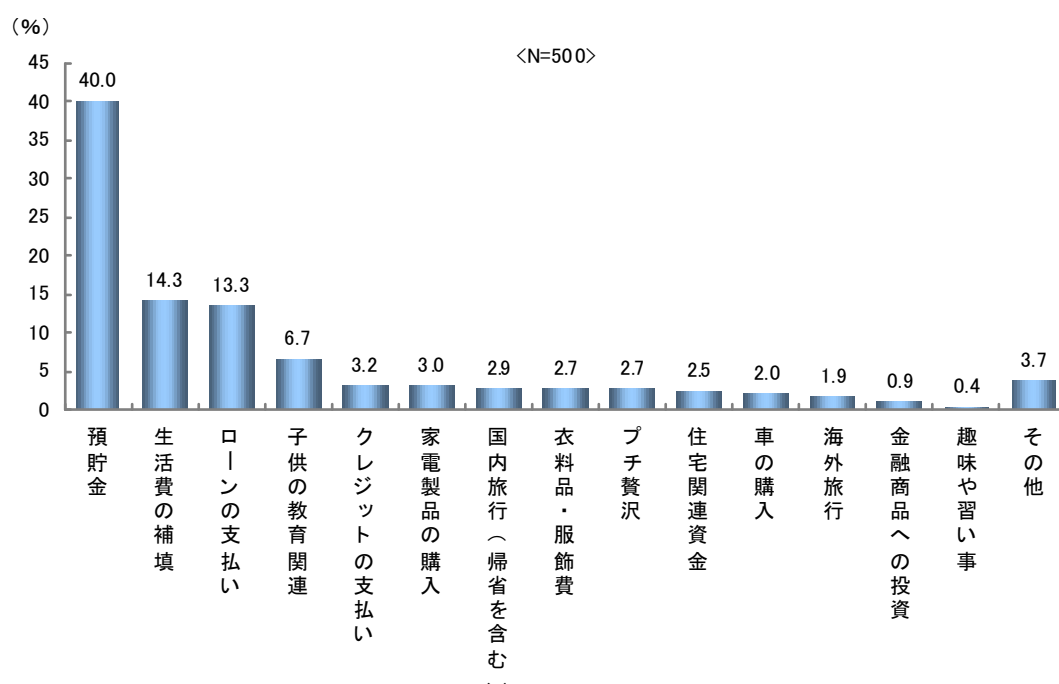
	サンプル数	預貯金	生活費の補填	ローンの支払い	衣料品・服飾費	子供の教育関連	プチ贅沢	国内旅行（帰省を含む）	家電製品の購入	クレジットの支払い	住宅関連資金	車の購入	海外旅行	趣味や習い事	金融商品への投資	その他
全 体	500	69.0	42.4	29.8	19.8	19.4	19.4	17.6	15.4	13.8	6.2	4.6	4.2	2.6	2.4	10.6
妻の年代																
20 代	125	78.4	32.8	17.6	17.6	9.6	18.4	18.4	15.2	10.4	7.2	5.6	4.8	2.4	2.4	10.4
30 代	125	76.8	36.8	32.0	19.2	19.2	22.4	20.0	14.4	9.6	7.2	7.2	8.0	1.6	2.4	8.8
40 代	125	64.0	49.6	36.0	21.6	26.4	21.6	16.8	16.0	18.4	4.0	1.6	2.4	3.2	0.8	14.4
50 代	125	56.8	50.4	33.6	20.8	22.4	15.2	15.2	16.0	16.8	6.4	4.0	1.6	3.2	4.0	8.8
子供																
いる	273	65.6	46.2	31.9	21.6	33.7	15.8	16.1	16.5	11.7	7.0	5.9	1.1	1.5	1.5	10.6
いない	227	73.1	37.9	27.3	17.6	2.2	23.8	19.4	14.1	16.3	5.3	3.1	7.9	4.0	3.5	10.6
ローン																
ある	234	61.5	49.6	58.5	21.4	25.6	18.8	16.7	17.5	17.1	6.8	6.8	2.6	1.7	1.3	9.0
ない	266	75.6	36.1	4.5	18.4	13.9	19.9	18.4	13.5	10.9	5.6	2.6	5.6	3.4	3.4	12.0
世帯年収																
600万円未満	210	65.7	48.6	22.9	21.0	18.6	22.4	16.2	16.2	14.8	5.7	7.1	2.4	2.4	1.4	13.8
600～800万円未満	126	73.8	42.9	36.5	19.0	15.9	18.3	22.2	13.5	18.3	6.3	0.8	4.0	0.8	0.8	9.5
800～1000万円未満	81	65.4	40.7	39.5	21.0	27.2	13.6	14.8	17.3	11.1	7.4	1.2	3.7	2.5	2.5	11.1
1000万円以上	83	73.5	27.7	27.7	16.9	19.3	19.3	16.9	14.5	7.2	6.0	7.2	9.6	6.0	7.2	3.6
受給額																
50万円未満	214	59.8	46.3	22.0	16.8	14.5	18.2	15.9	13.1	9.8	7.0	4.7	2.8	2.3	0.9	13.1
50～100万円未満	225	76.0	44.9	34.2	22.2	20.9	20.9	18.7	15.6	19.1	4.9	4.0	4.4	2.7	3.1	9.3
100万円以上	61	75.4	19.7	41.0	21.3	31.1	18.0	19.7	23.0	8.2	8.2	6.6	8.2	3.3	4.9	6.6

- ・妻の年代別にみると、「預貯金」は《20代》（78.4%）、《30代》（76.8%）で7割台と高く、将来のために備えておこうという意識が強いようです。一方、「生活費の補填」は《40代》（49.6%）、《50代》（50.4%）で高くなっています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「生活費の補填」「子供の教育関連」は《いる》人の方が高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、住宅ローンが《ある》人は「ローンの支払い」（58.5%）が半数を超えているのが目立ちます。一方、住宅ローンが《ない》人は「預貯金」（75.6%）の割合が、《ある》人（61.5%）に比べてかなり高めです。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が低い人ほど「生活費の補填」が多く、《600万円未満》（48.6%）では半数近くに達しています。
- ・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど「預貯金」「ローンの支払い」「子供の教育関連」「家電製品の購入」などが多い傾向にあります。一方、「生活費の補填」は、《100万円以上》（19.7%）支給された人ではかなり少なめです。

■昨冬の調査結果との比較■

「預貯金」（75.0%→69.0%）、「生活費の補填」（44.6%→42.4%）も減っていますが、「国内旅行」（20.2%→17.6%）、「衣料品・服飾費」（21.6%→19.8%）、「子供の教育関連」（21.2%→19.4%）、「プチ贅沢」（20.8%→19.4%）なども減っており、使い道は節約の方向にあるようです。

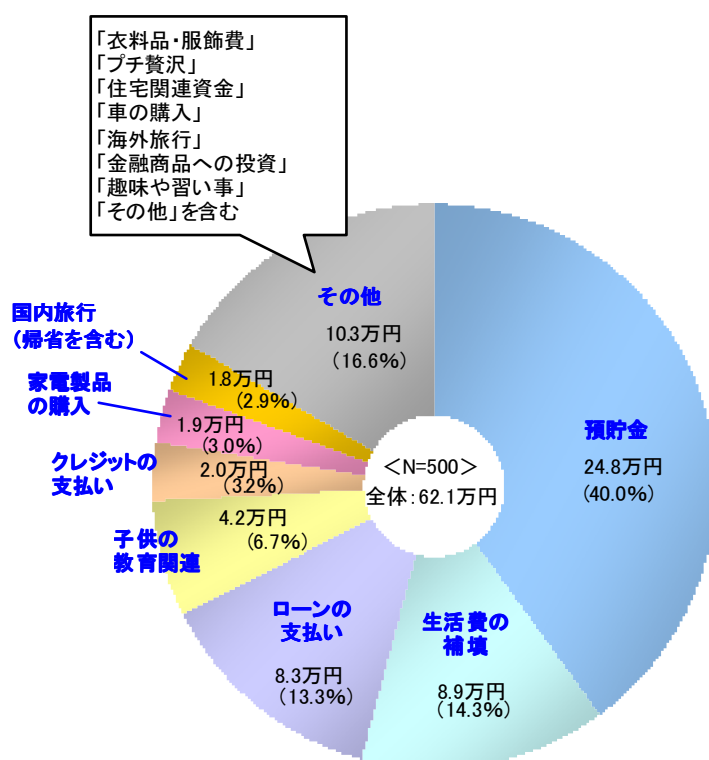
図 8. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値を%に換算したもの）



次に、冬のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を%に換算したもの）。

割合の平均値をみると、やはり「預貯金」が断然多く、ボーナス全額の4割（40.0%）を占めています。以下、「生活費の補填」（14.3%）、「ローンの支払い」（13.3%）の順で、このトップ3で7割近く（67.6%）に達します。

図 9. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（この冬のボーナス平均手取額 62.1 万円を総額とし、金額に換算）



参考までに、今回の冬のボーナスの平均手取額「62.1 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 24.8 万円となりました。

※例えば「国内旅行（帰省を含む）」（1.8 万円）は実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でならずと、一家庭当たり 1.8 万円に当たることを示しています。

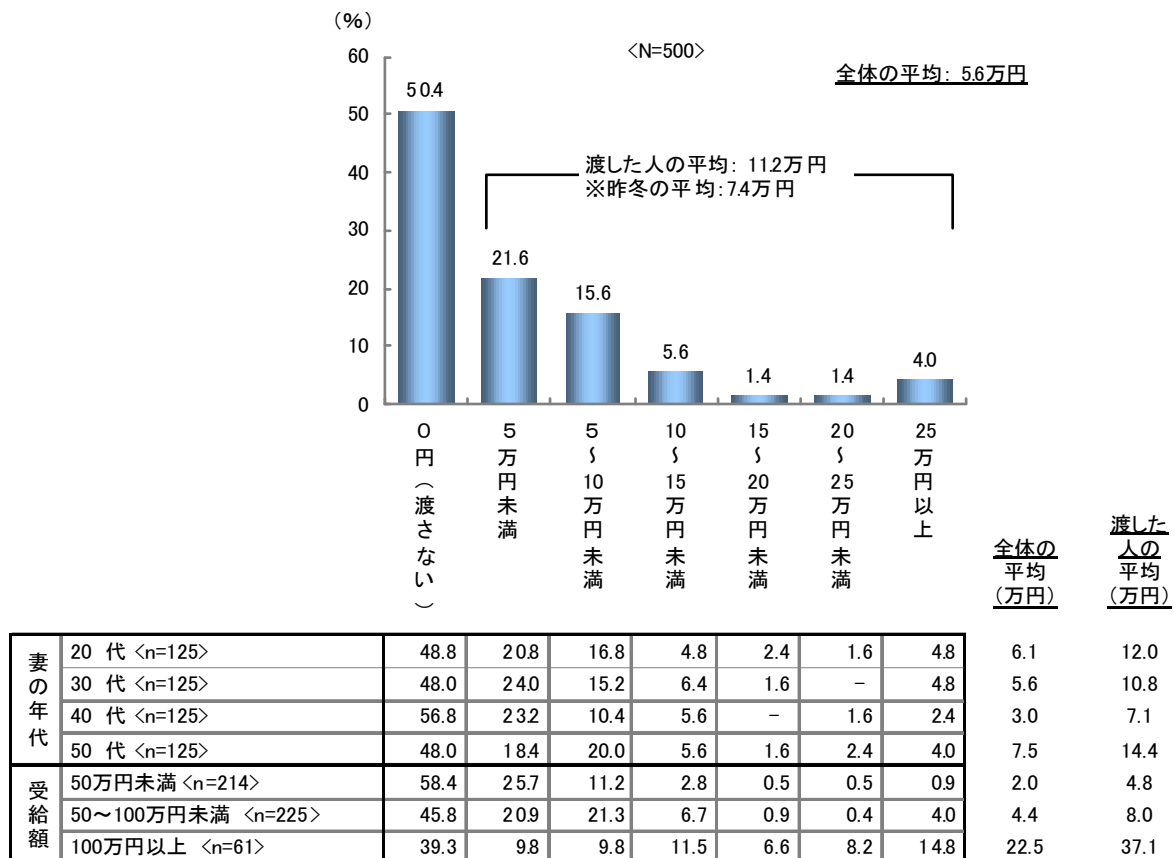
7. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円（渡さない）」が半数以上（50.4%）。

“渡した（渡そうと思っている）”人では、「5万円未満」（21.6%）、「5～10万円未満」（15.6%）、「10～15万円未満」（5.6%）などの順で、“渡した”人の平均は「11.2万円」。

◆「0円（渡さない）」とした人の理由は、「必要な時にはその都度渡しているので」（31.3%）、「毎月お小遣いを渡しているので」（30.6%）、「もらったボーナスが少ないので」（22.6%）、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」（20.2%）、「将来に備えることの方が大事なので」（20.2%）など。

図 10. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞きました。

「0円（渡さない）」が半数以上（50.4%）を占めており、家計を預かる主婦の財布の紐の堅さがうかがえます。渡した人では、「5万円未満」（21.6%）、「5～10万円未満」（15.6%）、「10～15万円未満」（5.6%）などの順で、“渡した”人の平均は「11.2万円」となっています。なお、「0円（渡さない）」も含めた全員の平均は「5.6万円」です。

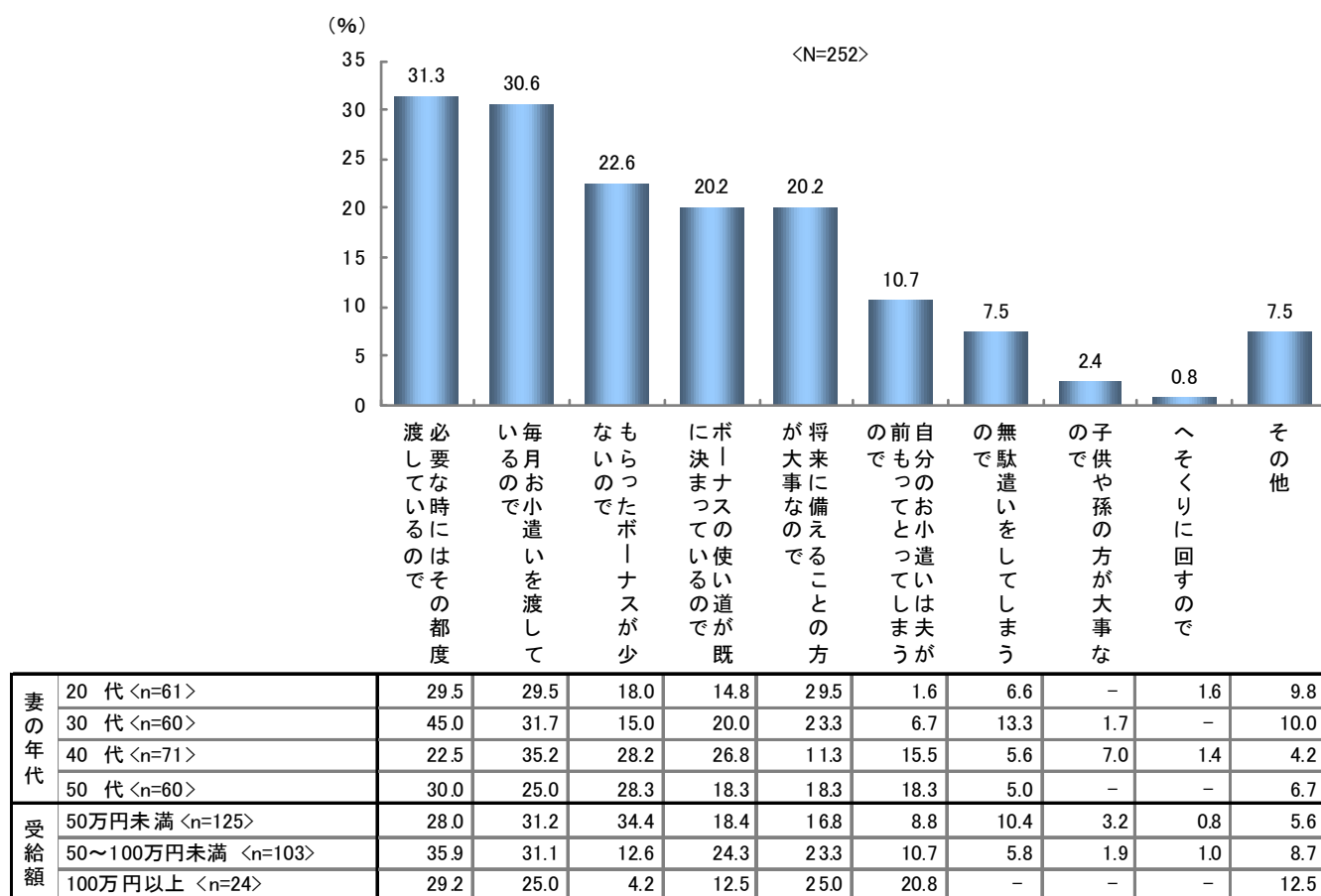
- ・妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《50代》（14.4万円）が最も多く、《40代》（7.1万円）が最も少なくなっています。
- ・ボーナス受給額別に“渡した”人の平均金額をみると、受給額が高いほど渡した金額も高く、特に《100万円以上》（37.1万円）の人で多いのが目立ちます。
- ・居住地区別にみると、“渡した”人の平均は《東日本》（15.6万円）の方が《西日本》（6.4万円）よりもかな

り多くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「0円（渡さない）」（46.2%→50.4%）がやや増えていますが、渡した人の平均額は「7.4万円」→「11.2万円」と大幅に増えた結果、全体の平均も「4.0万円」→「5.6万円」と増えています。

図 11. 「渡さない」理由（複数回答）



「0円（渡さない）」と答えた人に、その理由を聞いてみたところ、「必要な時にはその都度渡している」（31.3%）、「毎月お小遣いを渡している」（30.6%）、「もらったボーナスが少ないので」（22.6%）、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」（20.2%）、「将来に備えることの方が大事な」（20.2%）などの順となっています。

・妻の年代別にみると、「もらったボーナスが少ないので」「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうので」などは年代が上の人ほど、「将来に備えることの方が大事な」などは年代が下の人ほど高い割合となっています。

・ボーナス受給額別にみると、額が低い人ほど「もらったボーナスが少ないので」の割合は高く、《50万円未満》（34.4%）の人では3割を超えています。

8. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

芸能界では「スギちゃん」(61 件)、スポーツ界では「吉田沙保里」(60 件)、その他の分野では「山中伸弥(ノーベル賞受賞)」(31 件)などに臨時ボーナスをあげたい。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「香川真司」(17,833 万円)、「山中伸弥(ノーベル賞受賞)」(3,033 万円)、「栗山英樹」(3,017 万円)がトップ3。

2012 年後半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人(芸能人)

芸能界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	スギちゃん	61	339	10,000
2	嵐	15	1,180	10,000
3	中村勘三郎	6	2,435	9,999
4	森光子	5	2,426	10,000
	EXILE	5	2,420	10,000
6	SMAP	4	2,000	5,000
7	AKB48	3	370	1,000
	ゴールデンボンバー	3	183	400
	松坂桃李	3	77	100
	その他	49	1,377	50,000

まず、芸能界では、2012 年にお笑いタレントとしてブレイクした「スギちゃん」(61 件)が突出して多く、以下「嵐」(15 件)、そして昨年末に亡くなられた「中村勘三郎」(6 件)、「森光子」(5 件)、および「EXILE」(5 件)などが続いています。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	吉田沙保里	60	393	5,000
2	浅田真央	23	174	1,000
	内村航平	23	442	3,000
4	なでしこジャパン	14	351	1,000
5	羽生結弦	6	120	300
	北島康介	6	383	1,000
7	イチロー	5	2,056	10,000
8	三浦知良	4	100	150
9	バレーボール全日本女子	3	400	1,000
	栗山英樹	3	3,017	8,000
	原辰徳	3	50	100
	香川真司	3	17,833	50,000
	その他	46	2,548	50,000

次いで、スポーツ界では、「吉田沙保里」（60 件）が圧倒的に多くなっています。2 位以下も「浅田真央」（23 件）、「内村航平」（23 件）、「なでしこジャパン」（14 件）、「北島康介」（6 件）など、オリンピックで活躍した選手が多くあげられています。オリンピック選手以外では、「羽生結弦」（6 件）、「イチロー」（5 件）、「三浦知良」（4 件）などがあげられています。

金額は、「香川真司」（17,833 万円）、「栗山英樹」（3,017 万円）、「イチロー」（2,056 万円）など、プロスポーツ選手や監督が高い金額となっています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	山中伸弥（ノーベル賞受賞）	31	3,033	50,000
2	橋下徹	6	162	500
3	野田佳彦	4	525	1,000
4	自分	3	233	500
	その他	31	558	10,000

その他の分野では、あげられている総数が少ないのですが、「山中伸弥（ノーベル賞受賞）」（31 件）が断然トップで、金額も「3,033 万円」と、圧倒的に高くなっています。以下、「橋下徹」（6 件）、「野田佳彦」（4 件）の政治家や、「自分」（3 件）などとなっています。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	スギちゃん	61
2	吉田沙保里	60
3	山中伸弥（ノーベル賞受賞）	31
4	浅田真央	23
	内村航平	23
6	嵐	15
7	なでしこジャパン	14
8	中村勘三郎	6
	羽生結弦	6
	北島康介	6
	橋下徹	6

順位		平均金額 （万円）
1	香川真司	17,833
2	山中伸弥（ノーベル賞受賞）	3,033
3	栗山英樹	3,017
4	中村勘三郎	2,435
5	森光子	2,426
6	EXILE	2,420
7	イチロー	2,056
8	SMAP	2,000
9	嵐	1,180
10	野田佳彦	525

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の第1位と比べると、

【芸能界】 「芦田愛菜」（62件）→「スギちゃん」（61件）

【スポーツ界】 「なでしこジャパン」（129件）→「吉田沙保里」（60件）

【その他】 「東日本大震災の被災地で活躍した人（自衛隊、ボランティアなど）」（10件）
→「山中伸弥（ノーベル賞受賞）」（31件）

と、いずれも入れ替わっています。

9. 今年の冬のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナスが なければ帰省が できません」「ボーナスよ さよなら言わず どこへ行く」「ボーナス日 車欲しいが タイヤだけ」「ボーナスが あって良かった 寒い冬」「おとうさん 肩もみします 今日だけは」など、受給額によって悲喜こもごも。

表 6. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数	参考	
			昨冬の 順位	昨冬の 件数
1	家計のやりくりの大変さ	85	1	95
2	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	45	2	32
3	ボーナスが出たことへの感謝	27	4	24
4	ボーナスが出ただけマシ	22	3	31
5	ボーナスに期待していない	20	—	—
6	今後のボーナスの不安	15	9	13
7	使い道は貯蓄が最優先	15	5	22
8	夫への感謝の気持ち	10	7	15
9	世相を反映	8	6	19
10	税金に泣く	7	10	9
11	ボーナスの額を見て喜んだ気持ち	7	8	14
12	使い道は旅行や食事	5	11	7
	その他	45		

冬のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」（85 件）を詠んだものが非常に多く、次いで「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」（45 件）、「ボーナスが出ただけマシ」（22 件）、「ボーナスに期待していない」（20 件）と額の少なさを嘆くものや、「ボーナスが出たことへの感謝」（27 件）、「今後のボーナスへの不安」（15 件）、「使い道は貯蓄が最優先」（15 件）などが続いています。

実際に詠まれた川柳から代表例をあげると、以下の通りとなっています。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・ボーナスが なければ帰省が できません （20 代・専業主婦）
- ・ボーナスが 我が家の通帳 駆け抜ける （40 代・有職主婦）
- ・ボーナスが 全部消えてく 教育費 （40 代・専業主婦）
- ・ボーナスと 恋の噂は さっと消え （50 代・有職主婦）
- ・ボーナスよ さよなら言わず どこへ行く （20 代・有職主婦）

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナスと 呼べない金額 寸志なり （50 代・専業主婦）
- ・ボーナス日 車欲しいが タイヤだけ （30 代・有職主婦）

- ・言ってみたい ボーナスだから 買っちゃった♪ (20代・専業主婦)
- ・皮算用 やっぱりただの 皮算用 (40代・専業主婦)

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・ボーナスが あって良かった 寒い冬 (40代・専業主婦)
- ・ボーナスで 家族の笑顔も また買える (20代・有職主婦)

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・この時代 ボーナス出るだけ ありがたや (30代・専業主婦)
- ・ボーナスが あるだけましと 慰める (50代・専業主婦)

【ボーナスに期待していない】

- ・ボーナスは あてにしていると 痛い目に (30代・専業主婦)
- ・ボーナス日 忘れるぐらい 期待薄 (40代・有職主婦)

【今後のボーナスの不安】

- ・ボーナスよ 今年で最後に なるのかな (50代・専業主婦)
- ・今出ても 来期はどうか わからない (30代・有職主婦)

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・ボーナスが 出たが使わず まず貯金 (20代・専業主婦)
- ・ボーナスは 未来のための 安心料 (30代・有職主婦)

【夫への感謝の気持ち】

- ・おとうさん 肩もみします 今日だけは (30代・有職主婦)
- ・予想より 多い賞与で 仲直り (20代・専業主婦)

【世相を反映】

- ・ボーナス分 新消費税で 消えていく (50代・専業主婦)

【税金に泣く】

- ・やめてくれ ボーナスからの 社会保険 (30代・有職主婦)

【ボーナスの額を見て喜んだ気持ち】

- ・通帳の 数字を見ると 顔ゆるむ (40代・専業主婦)

【使い道は旅行や食事】

- ・ボーナスで 回らない寿司 食べに行く (20代・専業主婦)

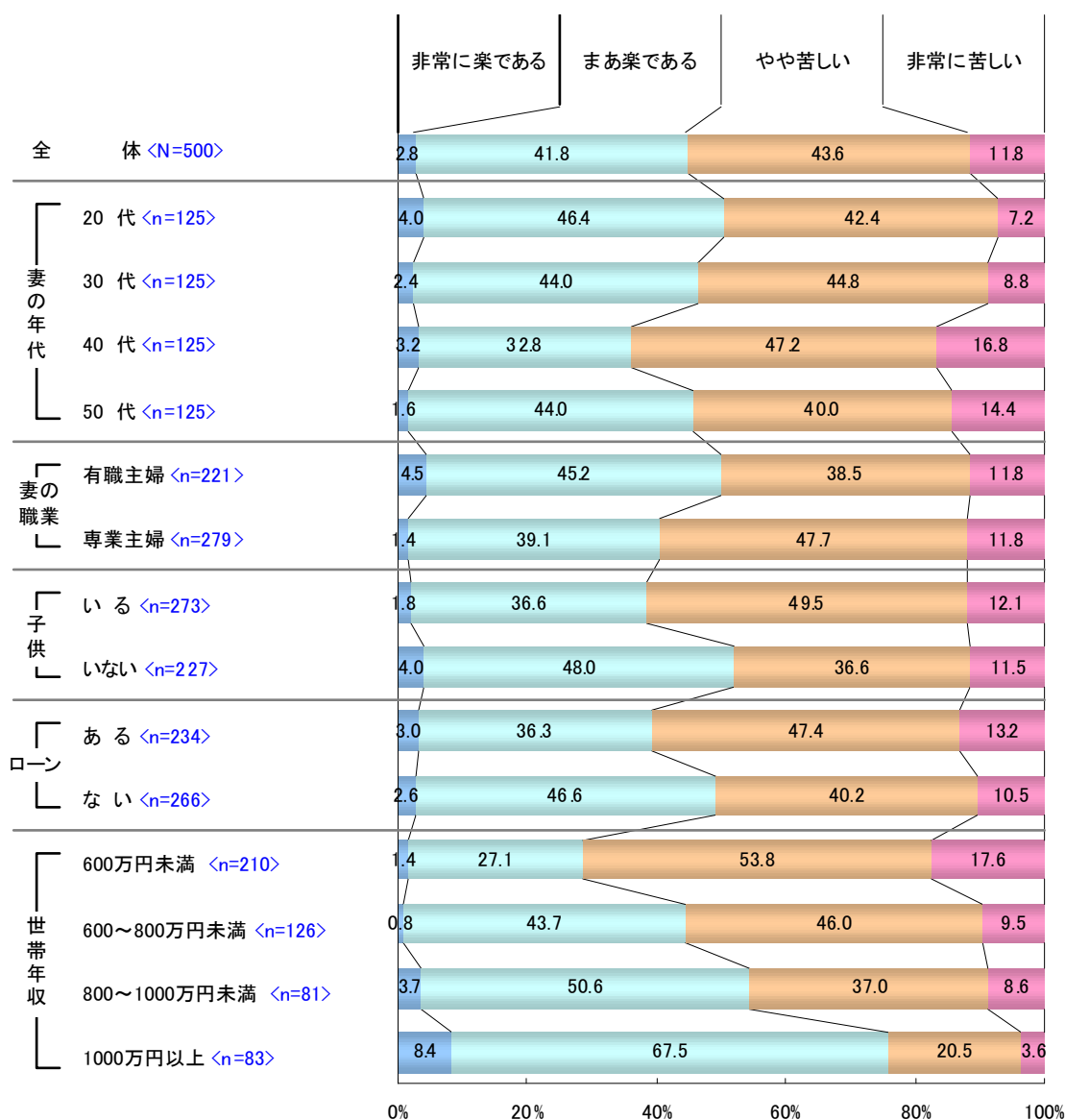
Ⅱ わが家の家計

1. 家計についての現状認識

“苦しい”(55.4%)が“楽である”(44.6%)を上回り、依然として“苦しい”という認識が強い。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 12. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いたところ、「非常に楽である」(2.8%)、「まあ楽である」(41.8%)を合わせた“楽である”(44.6%)は半数以下で、「やや苦しい」(43.6%)、「非常に苦しい」(11.8%)を合わせた“苦しい”(55.4%)という方が多くなっています。依然として家計は苦しい状況が続いているようです。

- ・妻の年代別にみると、《40代》で“苦しい（非常に＋やや）”（64.0%）とする割合が最も高くなっています。
- ・妻の職業別にみると、“苦しい”とする割合は《有職主婦》（50.2%）よりも《専業主婦》（59.5%）の方が10ポイント近く高くなっています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“苦しい”の割合は、子供が《いない》（48.0%）場合よりも《いる》（61.5%）場合の方が10ポイント以上高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別では、“苦しい”の割合は、住宅ローンが《ある》（60.7%）場合の方が《ない》（50.8%）よりも約10ポイント高率です。
- ・世帯年収別にみると、年収が低くなるほど“苦しい”の割合が高く、《600万円未満》（71.4%）と《1000万円以上》（24.1%）とでは家計に対する認識に大きな差が生じています。

■昨冬の調査結果との比較■

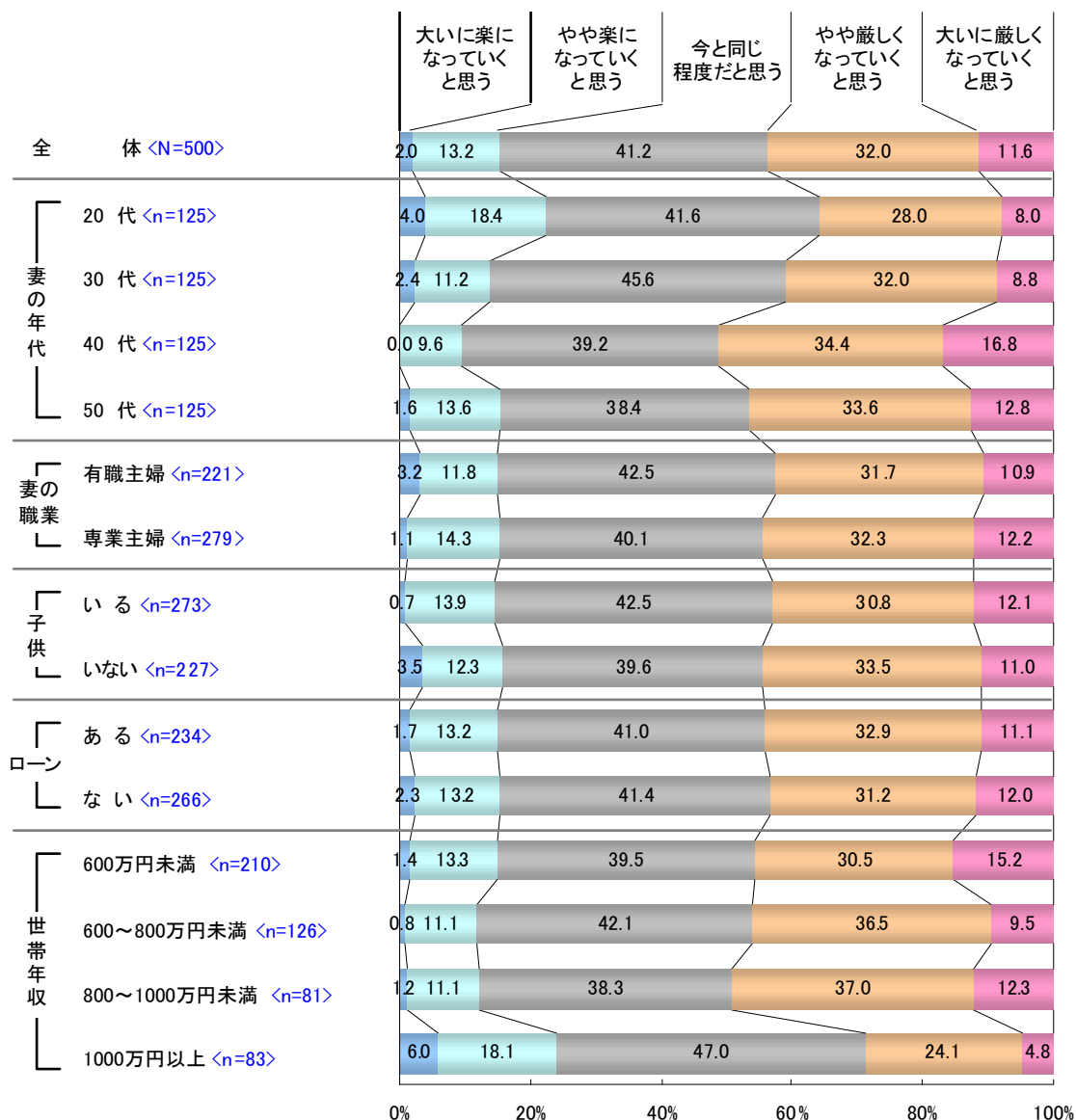
昨冬の調査結果と比べると、“楽である”（41.2%→44.6%）がわずかに増え、“苦しい”（58.8%→55.4%）がわずかに減りました。まだ“苦しい”という方が多いながら、改善の方向に向かっているようです。

2. 今後の家計の見通しとその理由

“厳しくなっていく”(43.6%)が4割強を占め、“楽になっていく”(15.2%)は1割台にとどまる。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや楽になっていくと思う」「大いに楽になっていくと思う」の合計を表します。

図 13. 今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、「大いに楽になっていくと思う」(2.0%)、「やや楽になっていくと思う」(13.2%)を合わせた“楽になっていく”(15.2%)は1割台にとどまり、「やや厳しくなっていくと思う」(32.0%)、「大いに厳しくなっていくと思う」(11.6%)を合わせた“厳しくなっていく”(43.6%)という方がはるかに多くなっています。また、「今と同じ程度だと思う」(41.2%)は4割程度で、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

・妻の年代別にみると、年代が上がるほど厳しいとみており、“厳しくなっていく”とする人は《20代》(36.0%)、

《30代》(40.8%)では4割前後ですが、《40代》(51.2%)、《50代》(46.4%)では半数前後です。

- ・妻の職業別や、独立していない子供（扶養中の子供）の有無別、住宅ローンの有無別では、大きな差ではありません。
- ・世帯年収別にみると、1000万円未満まではあまり変わりありませんが、《1000万円以上》の世帯になると“楽になっていく”(24.1%)の割合が高く、“厳しくなっていく”(28.9%)が低くなっています。やはり年収が高い世帯ほど楽観的な見方が多くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

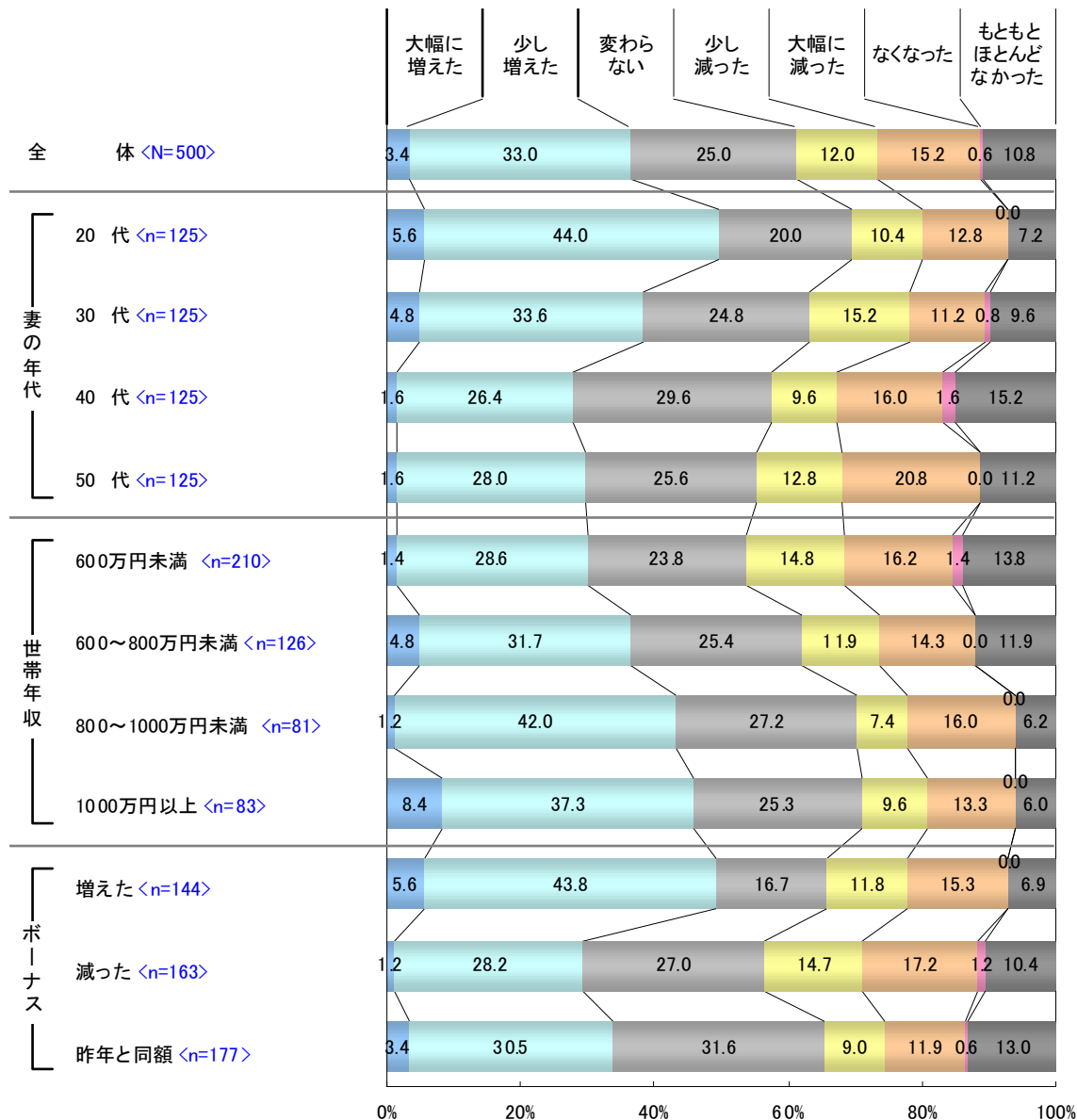
昨冬の調査結果と比べると、“楽になっていく”(12.4%→15.2%)、“厳しくなっていく”(42.8%→43.6%)ともにやや増えていますがあまり大きな動きではなく、厳しい状況は続くという見通しは昨冬と変わりません。

3. 世帯の預貯金残高の増減

“増えた”(36.4%)という方が“減った+なくなった”(27.8%)よりも多い。

◆「増えた」理由は、「毎月貯金したから」(74 件)、「節約したから」(27 件)、「給与が上がったから」(14 件)、「出費が減ったから／ローンが終わったから」(12 件)、「ボーナスを貯金したから」(11 件)など、「減った」理由は、「子供の教育費・仕送りに使ったから」(31 件)、「住居の購入・改築をしたから」(25 件)、「手術、出産など医療費がかさんだから」(13 件)など。

図 14. 世帯の預貯金残高の増減



世帯の預貯金の残高は今年1年で増えたか、減ったかをみると、「変わらない」が4分の1（25.0%）を占めているほかは、「大幅に増えた」（3.4%）、「少し増えた」（33.0%）を合わせた“増えた”（36.4%）という回答が4割近くを占め、「少し減った」（12.0%）、「大幅に減った」（15.2%）、「なくなった」（0.6%）を合わせた“減った”（27.8%）よりも10ポイント近く高い割合となっています。そのほか、「もともとほとんどなかった」（10.8%）という世帯も

1 割程度います。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど世帯の預貯金残高は増えている傾向があり、《40 代》（28.0%）、《50 代》（29.6%）では3割弱ですが、《30 代》（38.4%）では4割近く、《20 代》（49.6%）では半数近くに達しています。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高いほど預貯金残高は増えており、《600 万円未満》の層では“増えた”（30.0%）よりも“減った＋なくなった”（32.4%）の方が少し多くなっていますが、《1000 万円以上》になると、“増えた”（45.8%）の方が“減った＋なくなった”（22.9%）よりも20ポイント以上高くなっています。
- ・ボーナスの増減別にみると、やはりボーナスが《増えた》という人の方が、《減った》人よりも、世帯の預貯金残高が“増えた”（順に49.3%、29.4%）とする割合はかなり高くなっています。

表 7. “増えた”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	毎月貯金したから	74
2	節約したから	27
3	給与が上がったから	14
4	出費が減ったから／ローンが終わったから	12
5	ボーナスを貯金したから	11
6	共働きで稼いだから	10
	臨時収入（祝い・宝くじ・遺産など）があったから	10
8	子供が独立したから／教育費が減ったので	4
	その他	15

“増えた”と答えた人に、その理由を自由回答で聞いたところ、「毎月貯金したから」（74 件）が圧倒的に多く、以下「節約したから」（27 件）、「給与が上がったから」（14 件）、「出費が減ったから／ローンが終わったから」（12 件）、「ボーナスを貯金したから」（11 件）、「共働きで稼いだから」（10 件）、「臨時収入（祝い・宝くじ・遺産など）があったから」（10 件）などの順となっています。

表 8. “減った＋なくなった”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	子供の教育費・仕送りに使ったから	31
2	住居の購入・改築をしたから	25
3	手術、出産など医療費がかさんだから	13
4	給与が下がったから	12
5	自分が働かなくなったから	10
6	車を購入したから	9
7	冠婚葬祭に使ったから	8
	生活費の穴埋めをしたから	8
9	趣味・レジャーに使ったから	5
	その他	29

“減った＋なくなった”と答えた人の理由をみると、「子供の教育費・仕送りに使ったから」（31 件）、「住居の購入・改築をしたから」（25 件）、「手術、出産など医療費がかさんだから」（13 件）、「車を購入したから」（9 件）といった出費に使ったり、「給与が下がったから」（12 件）、「自分が働かなくなったから」（10 件）といった収入減などの理由があげられています。

表 9. 「変わらない」理由（自由回答：件）

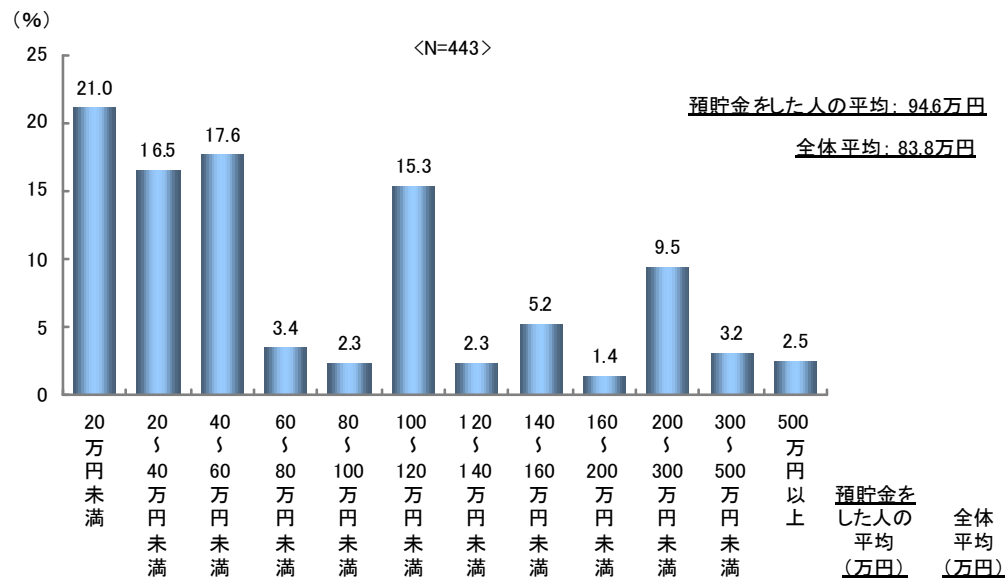
順位		件数
1	増やす余裕がないから／出費がかさむから	23
2	生活に変化がないから	22
3	収支が同じくらいだから	20
4	増やす気がない／手をつけないから	10
5	子供の教育費やローンに充てるから	8
6	収入が少ないから／減ったから	6
	その他	17

「変わらない」と答えた人の理由をみると、「増やす余裕がないから／出費がかさむから」（23 件）、「生活に変化がないから」（22 件）、「収支が同じくらいだから」（20 件）などの順となっています。

4. 今年1年間にいくらぐらい預貯金をしたか

「20万円未満」(21.0%)、「40～60万円未満」(17.6%)、「20～40万円未満」(16.5%)、「100～120万円未満」(15.3%)などの順で、預貯金をした人の平均「94.6万円」。

図 15. 今年1年間にいくらぐらい預貯金をしたか



妻の年代	20代<n=116>	11.2	18.1	17.2	3.4	3.4	20.7	5.2	4.3	0.9	11.2	3.4	0.9	97.8	90.8
	30代<n=112>	24.1	17.0	16.1	4.5	4.5	11.6	0.9	4.5	-	10.7	3.6	2.7	96.0	86.0
	40代<n=104>	22.1	13.5	26.9	3.8	-	10.6	1.9	9.6	2.9	5.8	1.0	1.9	76.8	63.9
	50代<n=111>	27.0	17.1	10.8	1.8	0.9	18.0	0.9	2.7	1.8	9.9	4.5	4.5	106.4	94.5
妻職の業	有職主婦<n=197>	16.2	14.7	17.8	2.5	2.0	19.3	2.5	5.1	1.5	11.2	3.6	3.6	106.6	95.1
	専業主婦<n=246>	24.8	17.9	17.5	4.1	2.4	12.2	2.0	5.3	1.2	8.1	2.8	1.6	84.9	74.9
子供	いる<n=238>	22.7	18.1	18.1	3.8	1.7	14.7	1.7	5.5	1.7	7.6	1.7	2.9	90.3	78.8
	いない<n=205>	19.0	14.6	17.1	2.9	2.9	16.1	2.9	4.9	1.0	11.7	4.9	2.0	99.5	89.9
ローン	ある<n=205>	25.9	19.0	19.5	3.4	1.5	12.7	2.0	5.9	1.0	6.8	2.0	0.5	69.8	61.1
	ない<n=238>	16.8	14.3	16.0	3.4	2.9	17.6	2.5	4.6	1.7	11.8	4.2	4.2	116.0	103.8
世帯年収	600万円未満<n=178>	27.0	23.0	20.8	3.9	2.8	11.2	2.2	3.9	1.1	3.9	-	-	52.5	44.5
	600～800万円未満<n=111>	20.7	17.1	18.0	4.5	2.7	19.8	2.7	2.7	0.9	8.1	1.8	0.9	79.4	69.9
	800～1000万円未満<n=76>	18.4	10.5	14.5	3.9	1.3	22.4	2.6	7.9	1.3	13.2	2.6	1.3	97.6	91.5
	1000万円以上<n=78>	10.3	6.4	12.8	-	1.3	11.5	1.3	9.0	2.6	20.5	12.8	11.5	209.2	196.6

今年1年間に預貯金をした人は、いくらぐらい預貯金したかをみると、「20万円未満」(21.0%)、「40～60万円未満」(17.6%)、「20～40万円未満」(16.5%)と“60万円未満”の人が多くなっていますが、次いで「100～120万円未満」(15.3%)、「200～300万円未満」(9.5%)などが続き、平均「94.6万円」となっています。なお、預貯金をしなかった人を含めた全体の平均は「83.8万円」です。

- ・妻の年代別に平均額をみると、最も多いのは《50代》(106.4万円)で、最も少ないのは《40代》(76.8万円)となっています。
- ・妻の職業の有無別にみると、平均は《専業主婦》(84.9万円)よりも《有職主婦》(106.6万円)の方が20万円以上高くなっています。

- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、《いる》（90.3 万円）人よりも《いない》（99.5 万円）人の方が 10 万円近く高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別では、ローンが《ある》（69.8 万円）場合と《ない》（116.0 万円）場合とでは、《ない》場合の方が 50 万円近くも高い金額となっています。
- ・世帯年収別にみると、年収が高いほど預貯金額も高く、《600 万円未満》（52.5 万円）と比べて《1000 万円以上》（209.2 万円）では大きな差が生じています。

Ⅲ わが家の生活防衛策

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

ほぼ半数(45.4%)が『夫に内緒の資産』を持っている。

◆内緒の資産を持っている人の平均額は、「414.6 万円」(《20 代》では 295.4 万円、《50 代》では 560.7 万円)。

◆内緒の資産を持つ目的は、「老後(リタイア後)の備え」(41.4%)が最も多く、以下「自分の趣味や買い物のため」(40.1%)、「家族の病気などに備えて」(30.4%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(27.3%)などの順。「老後(リタイア後)の備え」は、《20 代》(29.3%)では少ないが、《40 代》(50.0%)、《50 代》(51.6%)では半数以上。

◆内緒の資産の原資は、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(58.1%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(31.7%)と“自分で働いて貯めた”お金という人が多い。

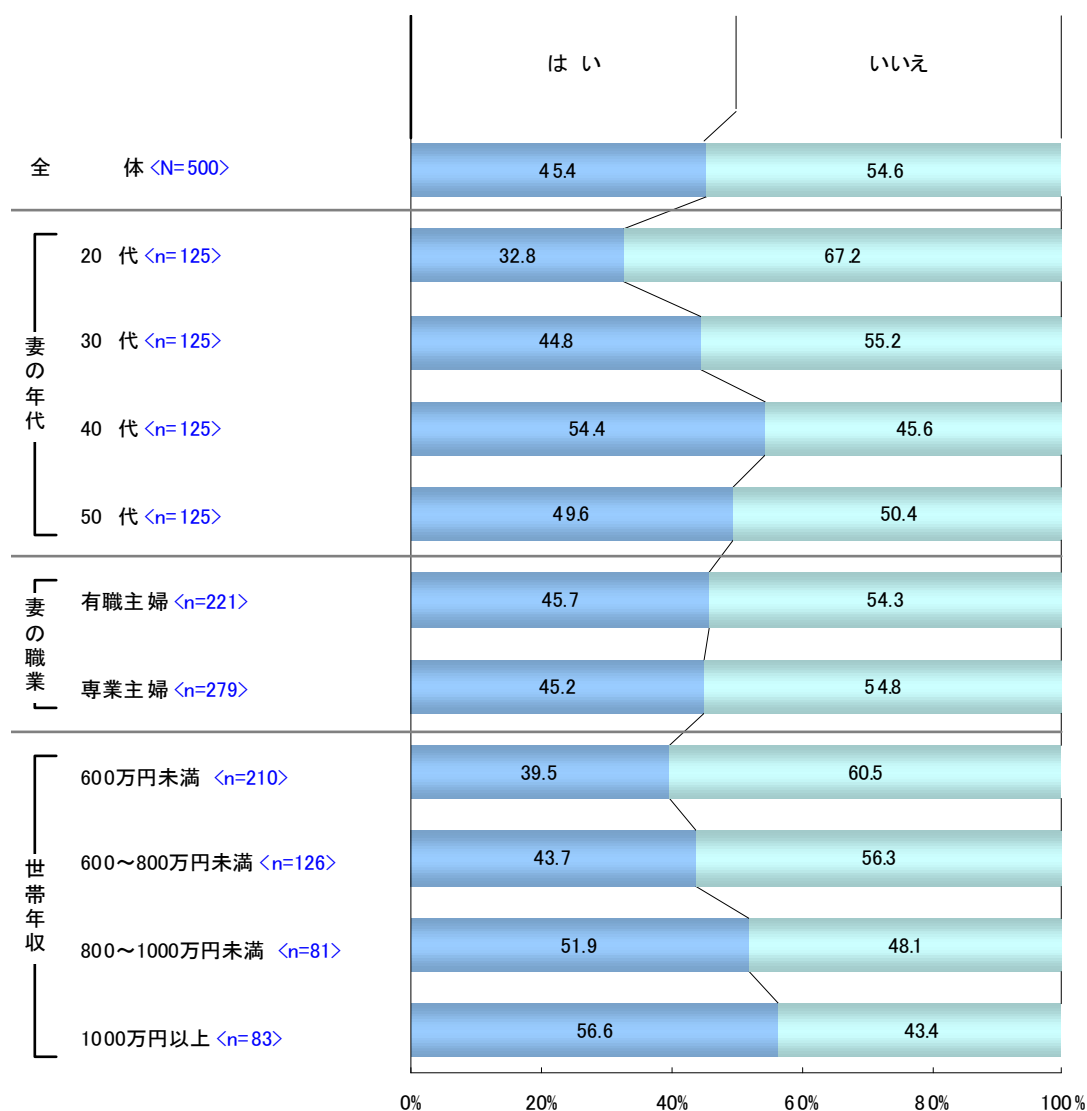
◆2012 年に入ってから増減は、「減った」(31.3%)が「増えた」(23.3%)よりやや多い程度。

◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(39.6%)と“意識的に増やした”ケースが最も多く、次いで「特定の支出がなくなり余裕ができた」(18.9%)、「自分の収入や夫の収入が増えた」(17.0%)など。減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(38.0%)、「臨時出費があった」(28.2%)など。

◆内緒の資産の今後の見通しは、“増えていくと思う”(43.2%)が“減っていく+なくなると思う”(28.2%)を上回る。“増えていくと思う”理由は、「地道に貯めているから」(28 件)、「働き始めたから／まだ働くから」(14 件)、「節約しているから」(11 件)など。“減っていくと思う”理由は、「子供の教育費にかかるから」(14 件)、「趣味に使うから」(9 件)、「生活費の穴埋めをしたから」(9 件)、「使う方が多いから」(9 件)など。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 16. 『夫に内緒の資産』を持っているか



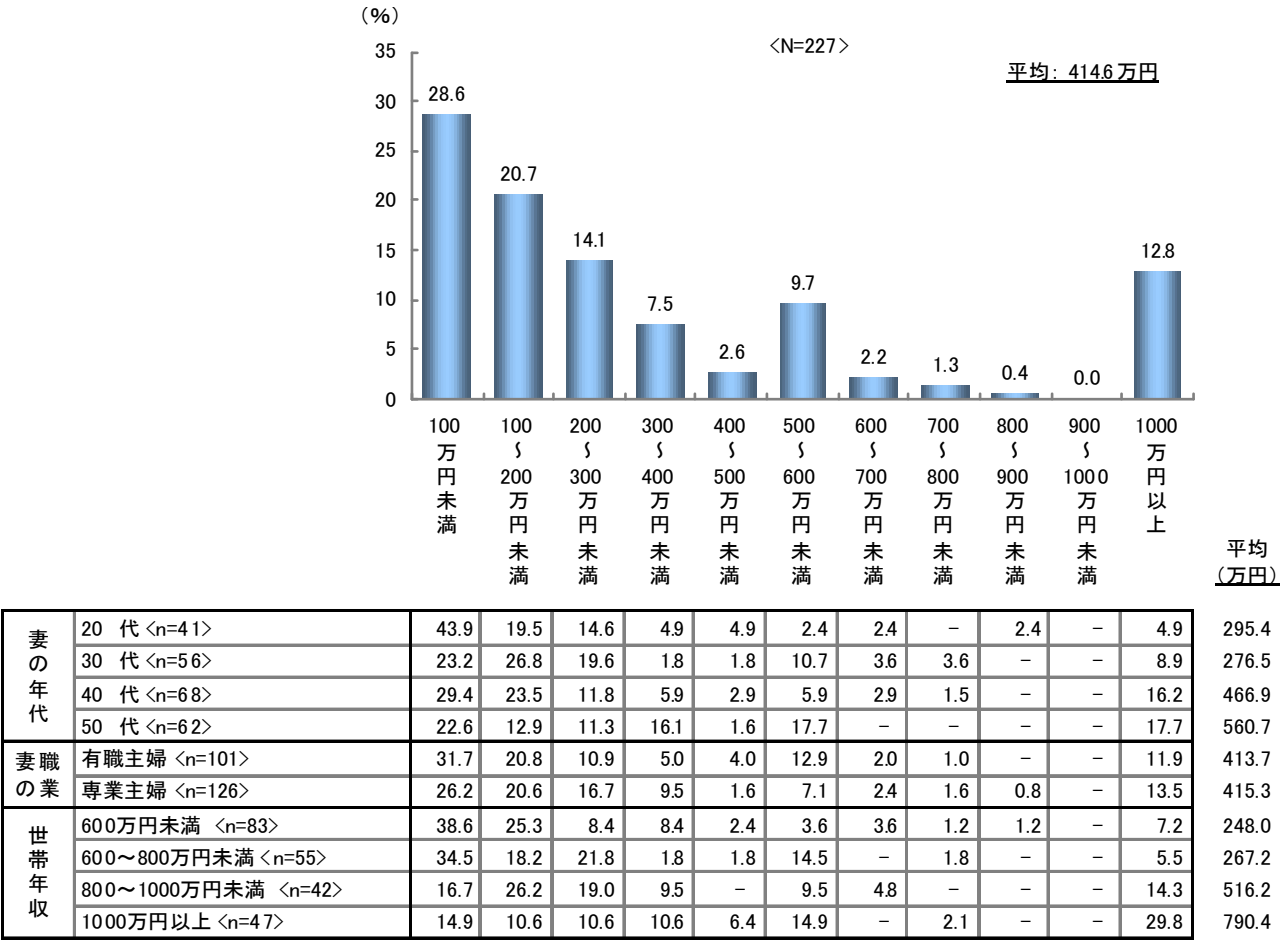
サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、ほぼ半数（45.4%）が「はい」と回答しています。

- ・妻の年代別にみると、保有率は《40代》（54.4%）で半数を超えて最も多く、《20代》（32.8%）で最も低くなっています。
- ・妻の職業別では、ほとんど差はありません。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるほど保有率も高く、《600万円未満》（39.5%）と《1000万円以上》（56.6%）とでは15ポイント以上の差が生じています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、保有者の割合は48.2%→45.4%とやや減っています。

図 17. 『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100万円未満」が3割弱（28.6%）で最も多く、以下「100～200万円未満」（20.7%）、「200～300万円未満」（14.1%）、「1000万円以上」（12.8%）、「500～600万円未満」（9.7%）などの順で、人によって大きな差があります。

資産保有者の平均額は「414.6万円」です。

ちなみに、最高金額は「5000万円」（1名）でした。

・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代にともなって金額は高くなっており、《50代》（560.7万円）では《20代》（295.4万円）よりも250万円以上も多くなっています。

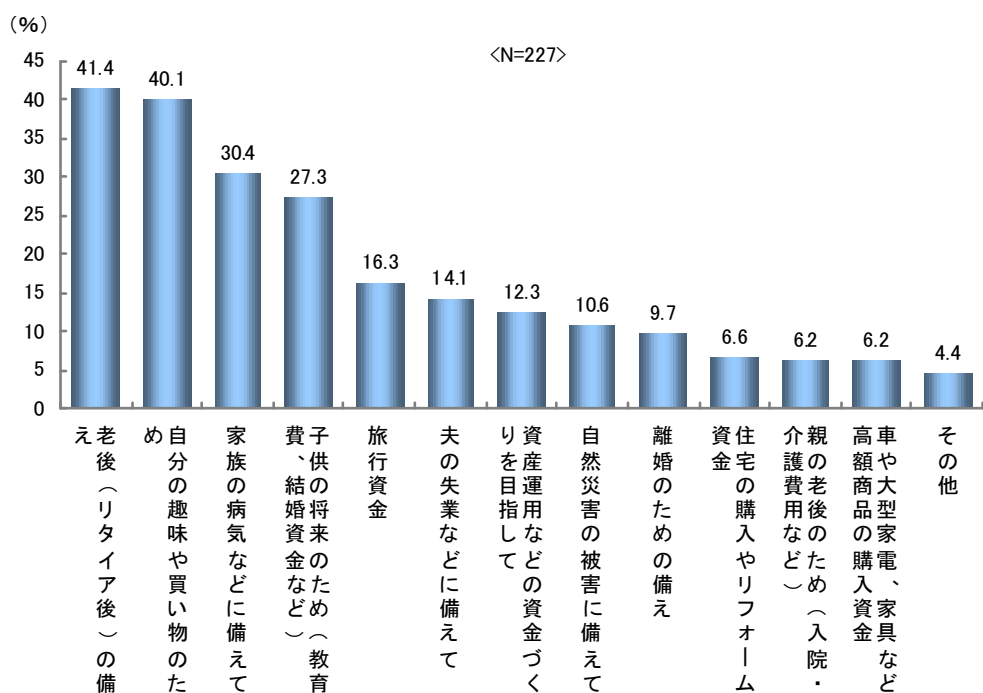
・妻の職業別にみると、平均は《有職主婦》（413.7万円）と《専業主婦》（415.3万円）の間に大きな差はありません。

・世帯年収別にみると、年収が高い家庭の主婦ほど資産額は高く、《600万円未満》では「248.0万円」、《1000万円以上》では「790.4万円」となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、平均所持率（48.2%→45.4%）はわずかに減っているものの、平均金額は「376.1万円」→「414.6万円」と約40万円増えています。

図 18. 『夫に内緒の資産』を持つ目的（複数回答）



妻の年代	20代〈n=41〉	29.3	43.9	39.0	31.7	19.5	26.8	12.2	14.6	12.2	9.8	4.9	7.3	4.9
	30代〈n=56〉	28.6	42.9	35.7	32.1	12.5	16.1	12.5	16.1	10.7	7.1	8.9	8.9	5.4
	40代〈n=68〉	50.0	32.4	25.0	25.0	10.3	11.8	11.8	5.9	11.8	2.9	5.9	4.4	5.9
	50代〈n=62〉	51.6	43.5	25.8	22.6	24.2	6.5	12.9	8.1	4.8	8.1	4.8	4.8	1.6
妻職の業	有職主婦〈n=101〉	40.6	33.7	32.7	29.7	19.8	15.8	12.9	14.9	9.9	9.9	6.9	12.9	2.0
	専業主婦〈n=126〉	42.1	45.2	28.6	25.4	13.5	12.7	11.9	7.1	9.5	4.0	5.6	0.8	6.3
世帯年収	600万円未満〈n=83〉	33.7	39.8	33.7	30.1	12.0	16.9	9.6	8.4	8.4	3.6	3.6	4.8	6.0
	600～800万円未満〈n=55〉	36.4	32.7	34.5	21.8	14.5	12.7	12.7	9.1	12.7	1.8	9.1	5.5	5.5
	800～1000万円未満〈n=42〉	64.3	42.9	23.8	21.4	16.7	16.7	9.5	16.7	7.1	14.3	7.1	7.1	—
	1000万円以上〈n=47〉	40.4	46.8	25.5	34.0	25.5	8.5	19.1	10.6	10.6	10.6	6.4	8.5	4.3

『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているかをみると、「老後（リタイア後）の備え」が4割強（41.4%）で最も多く、以下「自分の趣味や買い物のため」（40.1%）、「家族の病気などに備えて」（30.4%）、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（27.3%）、「旅行資金」（16.3%）、「夫の失業などに備えて」（14.1%）、「資産運用などの資金づくりを目指して」（12.3%）、「自然災害の被害に備えて」（10.6%）などの順となっています。

・妻の年代別にみると、当然ながら「老後（リタイア後）の備え」は年齢が上の人ほど多く、《20代》（29.3%）、《30代》（28.6%）では2割台ですが、《40代》（50.0%）、《50代》（51.6%）では半数を超えています。一方、「夫の失業などに備えて」は反対に若い人ほど高い割合を示しています。

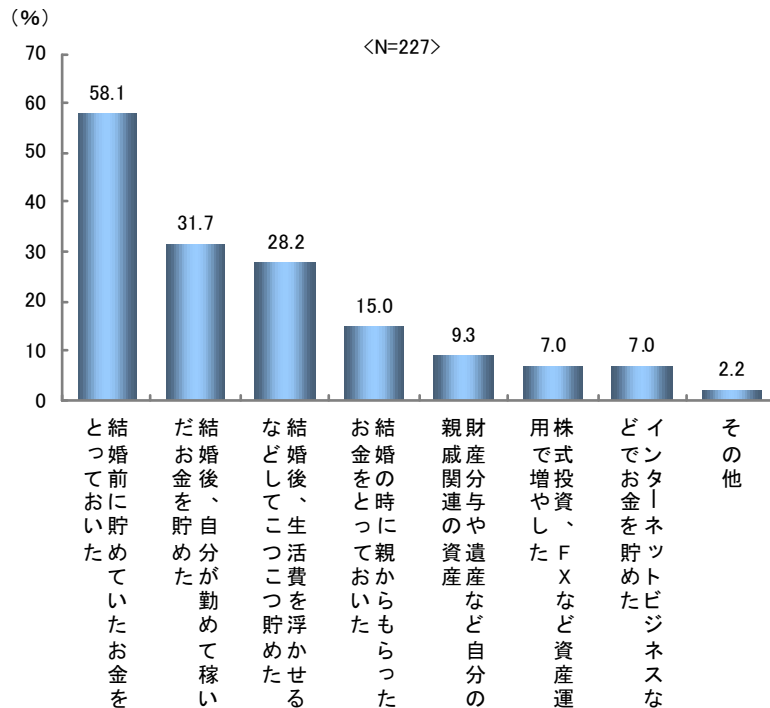
・妻の職業別にみると、「自分の趣味や買い物のため」は《有職主婦》（33.7%）よりも《専業主婦》（45.2%）の方が10ポイント以上高い割合を示しています。

・世帯年収別にみると、「老後（リタイア後）の備え」は《800～1000万円未満》（64.3%）で最も多いといった若干の傾向の違いがみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べてみると、「家族の病気などに備えて」（25.7%→30.4%）がやや増え、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（32.4%→27.3%）、「親の老後のため（入院・介護費用など）」（10.4%→6.2%）がやや減っています。

図 19. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」（58.1%）が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」（31.7%）が続き、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。

以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」（28.2%）、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」（15.0%）、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」（9.3%）などが続いています。

表 10. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

(%)

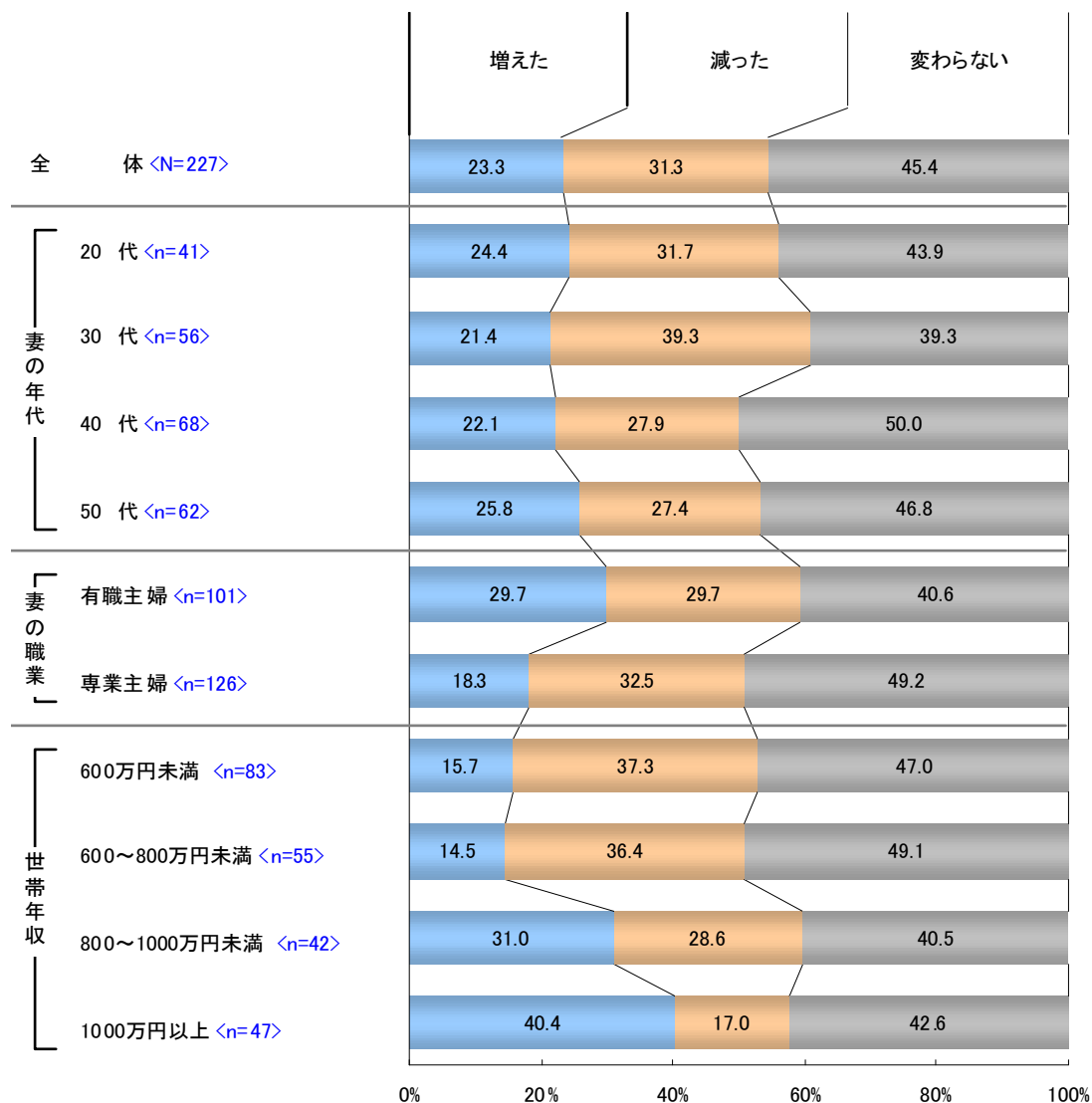
	サ ン プ ル 数	と結 婚前 にお いて 貯め てい たお 金を	だ結 婚後 、自 分が 勤め て稼 いだ	な結 婚後 、生 活費 を浮 かせる	お結 婚の 時に 親か らも らった	親財 戚産 関分 連与 のや 資産 遺産 など 自分 の	株 式投 資、 FX など 資産 運用	どイン ター ネット にお 金を 貯め たビ ジネ スな	そ の 他
全 体	227	58.1	31.7	28.2	15.0	9.3	7.0	7.0	2.2
内 緒 の 資 産	100万円未満	65	43.1	32.3	40.0	6.2	1.5	3.1	4.6
	100～200万円未満	47	59.6	27.7	29.8	19.1	2.1	4.3	2.1
	200～300万円未満	32	65.6	28.1	18.8	12.5	3.1	3.1	12.5
	300～500万円未満	23	60.9	34.8	30.4	13.0	4.3	8.7	—
	500～1000万円未満	31	61.3	29.0	25.8	25.8	22.6	6.5	6.5
	1000万円以上	29	75.9	41.4	10.3	20.7	34.5	24.1	10.3

・参考までに『内緒の資産額』別の傾向をみると、内緒の資産額が多い人ほど「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」や「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」が多く、逆に少ない人ほど「結婚後、生活費を浮かせるなどして貯めた」が多い傾向がみられます。また、《1000万円以上》の層では「株式投資、FXなど資産運用で増やした」（24.1%）が多いのが目立ちます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」（23.2%→28.2%）がやや増え、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」（39.0%→31.7%）がやや減っています。

図 20. 2012 年に入ってから増減



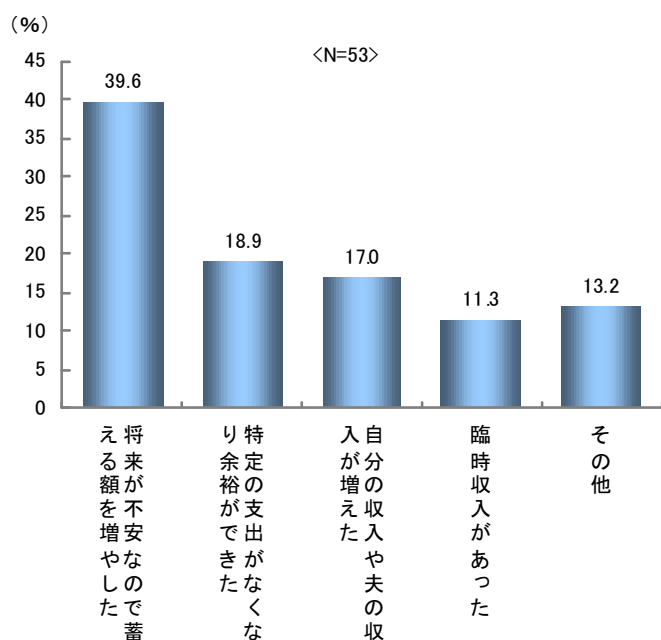
2012 年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「変わらない」（45.4％）が4割を超え、「増えた」（23.3％）と「減った」（31.3％）では「減った」がやや多い程度で、全体的にはあまり変化はないようです。

- ・妻の年代別にみると、「30 代」で「減った」（39.3％）の割合がやや高めです。
- ・妻の職業別にみると、「増えた」割合は《有職主婦》（29.7％）が《専業主婦》（18.3％）を10ポイント以上上回っており、やはり自分の仕事を持っている方が『夫に内緒の資産』も蓄積しやすいようです。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が多いほど「増えた」割合も高く、《600 万円未満》（15.7％）、《600～800 万円未満》（14.5％）の1割台に比べ、《800～1000 万円未満》（31.0％）では3割台、《1000 万円以上》（40.4％）では4割台と大きな差が生じています。

■昨冬の調査結果との比較■

「増えた」（24.9％→23.3％）、「減った」（30.3％→31.3％）、「変わらない」（44.8％→45.4％）と、いずれも大きな変動はありません。

図 21. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由



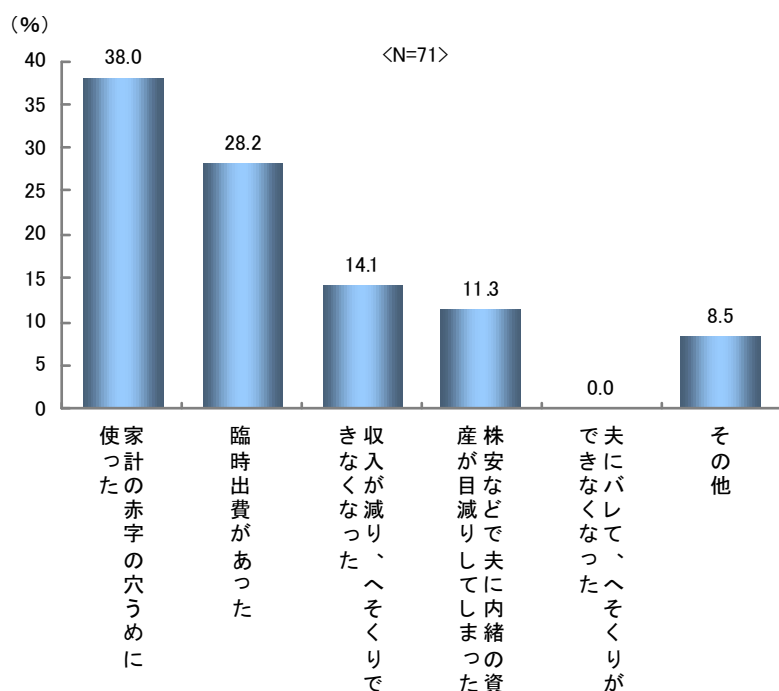
『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由をあげてもらったところ、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(39.6%) が最も多く、“意識的に増やした” ケースが多くなっています。以下、「特定の支出がなくなり余裕ができた」(18.9%) や、「自分の収入や夫の収入が増えた」(17.0%)、「臨時収入があった」(11.3%) など、“収入が増えた” という回答が続いています。

なお、「臨時収入があった」の具体的な内容としては、「親からもらった」(2件)、「投資」「自作の作品が売れた」「交通事故の賠償金」「前払い退職金」があげられています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果も「将来が不安なので蓄える額を増やした」(38.3%→39.6%) がトップで変わりませんが、「特定の支出がなくなり余裕ができた」(5.0%→18.9%) が増え、「自分の収入や夫の収入が増えた」(30.0%→17.0%)、「臨時収入があった」(18.3%→11.3%) は減っています。

図 22. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



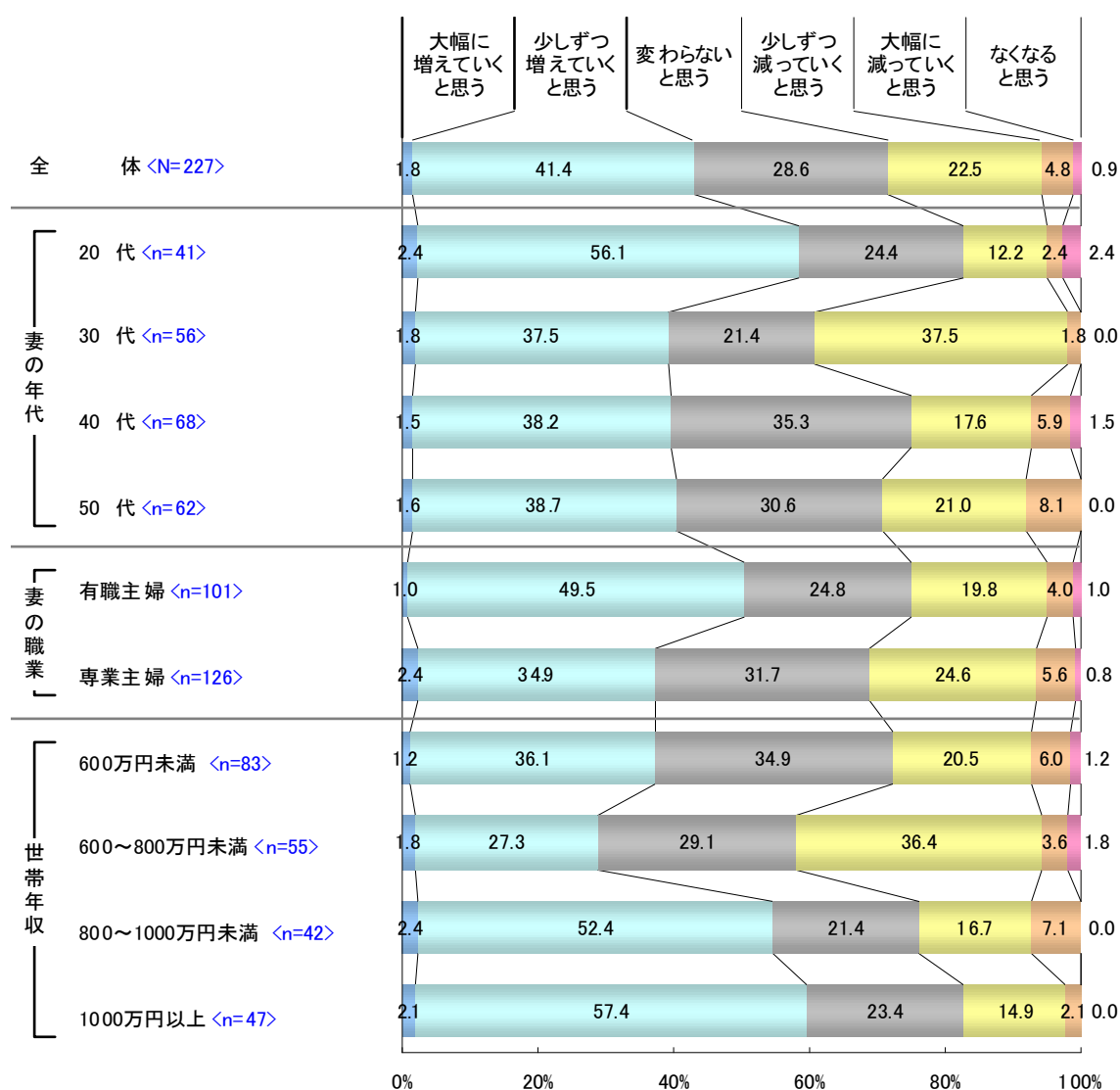
『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(38.0%)が最も多く、以下「臨時出費があった」(28.2%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(14.1%)、「株安などで夫に内緒の資産が目減りしてしまった」(11.3%)などの順となっています。

なお、「臨時出費があった」の具体的な内容としては、「帰省」「新車を購入した」「太陽光発電の設備投資」「家の新築」「不妊治療」「夫の手術、入院」などがあげられています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べ、今回は「臨時出費があった」(20.5%→28.2%)がやや増えています。

図 23. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している回答者に、今後の資産増減の見通しについて聞いたところ、「大幅に増えていくと思う」(1.8%)、「少しずつ増えていくと思う」(41.4%)を合わせた“増えていくと思う”が4割強(43.2%)を占め、「少しずつ減っていくと思う」(22.5%)、「大幅に減っていくと思う」(4.8%)、「なくなると思う」(0.9%)を合わせた“減っていく+なくなると思う”(28.2%)を大きく上回っています。また、「変わらないと思う」も3割弱(28.6%)います。

- ・妻の年代別にみると、30代以上ではあまり大きな差はありませんが、《20代》では“増えていくと思う”(58.5%)が半数を超えて突出して多くなっています。
- ・妻の職業別では、“増えていくと思う”の割合は《有職主婦》(50.5%)の方が《専業主婦》(37.3%)よりも10ポイント以上高い割合です。
- ・世帯年収別にみると、“増えていくと思う”割合は世帯年収が多いほど高く、《800～1000万円未満》(54.8%)、《1000万円以上》(59.5%)の世帯では半数を超えています。

表 11. 『夫に内緒の資産』が“増えていくと思う”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	地道に貯めているから	28
2	働き始めたから／まだ働くから	14
3	節約しているから	11
4	増やしたいという気持ちがあるから	10
5	資産運用などで増えそうだから	9
6	出費の予定がないから	8
7	収入が増えるから	5
	その他	14

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を自由回答で聞いてみました。

まず、“増えていくと思う”理由は、「地道に貯めているから」（28 件）が最も多く、以下「働き始めたから／まだ働くから」（14 件）、「節約しているから」（11 件）、「増やしたいという気持ちがあるから」（10 件）、「資産運用などで増えそうだから」（9 件）などで、働いたり節約したり投資したり、さまざまな方法で増やしていることがうかがえます。

表 12. 『夫に内緒の資産』が“減っていくと思う”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	子供の教育費にかかるから	14
2	趣味に使うから	9
	生活費の穴埋めをするから	9
	使う方が多いから	9
5	夫が退職したから／給与が下がったから	7
6	自分が働いていないから	6
7	増える見込みがないから	3
	その他	8

次いで、“減っていく＋なくなると思う”理由をみると、「子供の教育費にかかるから」（14 件）、「趣味に使うから」（9 件）、「生活費の穴埋めをするから」（9 件）、「使う方が多いから」（9 件）などのさまざまな出費や、「夫が退職したから／給与が下がったから」（7 件）、「自分が働いていないから」（6 件）と収入の減少などが理由となっています。

表 13. 『夫に内緒の資産』が“変わらないと思う”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	増やす気がない／手をつけないから	26
2	増やす余裕がないから	8
	生活に変化がないから	8
4	自分が働いていないから	4
	その他	13

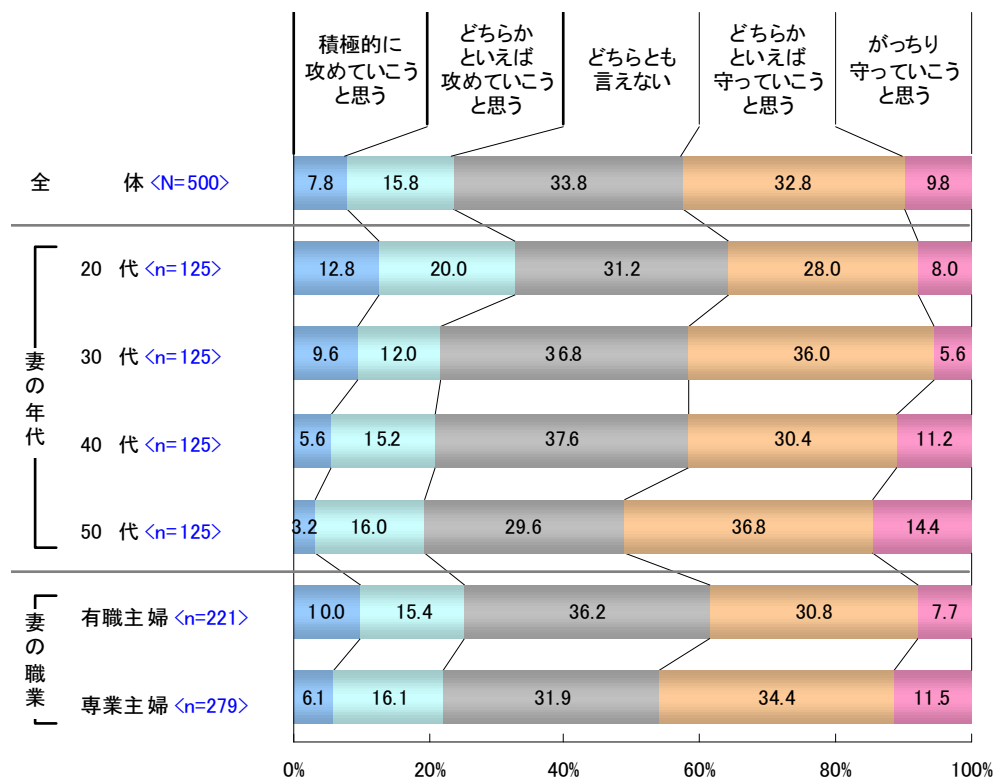
“変わらないと思う”理由は、「増やす気がない／手をつけないから」（26 件）と、“その気がない”という理由のほか、「増やす余裕がないから」（8 件）、「生活に変化がないから」（8 件）、「自分が働いていないから」（4 件）など、“やむを得ず”という理由も多くあげられています。

2. 2013 年の家計は“攻めていこう”と思うか、“守っていこう”と思うか

“守っていこうと思う”(42.6%)が“攻めていこうと思う”(23.6%)の2倍近い割合で、“守りの姿勢”が主。

※“攻めていこうと思う”は、「積極的に攻めていこうと思う」「どちらかといえば攻めていこうと思う」の合計、“守っていこうと思う”は、「がっちり守っていこうと思う」「どちらかといえば守っていこうと思う」の合計を表します。

図 24. 2013 年の家計に関して、資産運用など積極的に“攻めていこう”と思うか、倹約・節約をして“守っていこう”と思うか



2013 年の家計に関して、資産運用など積極的に“攻めていこう”と思うか、倹約・節約をして“守っていこう”と思うか、どちらの方針でいこうと思っているか聞いてみると、「積極的に攻めていこうと思う」(7.8%)、「どちらかといえば攻めていこうと思う」(15.8%)を合わせた“攻めていこうと思う”(23.6%)が2割台にとどまっているのに対し、「どちらかといえば守っていこうと思う」(32.8%)、「がっちり守っていこうと思う」(9.8%)を合わせた“守っていこうと思う”(42.6%)は4割台で、“攻めていこうと思う”の2倍近い割合です。

・妻の年代別にみると、“攻めていこうと思う”の割合は《20 代》(32.8%)で突出して高く、他の年代では2割前後にとどまっています。

・妻の職業別にみると、“攻めていこうと思う”という割合は《有職主婦》(25.3%)の方が《専業主婦》(22.2%)よりもやや多い程度で、あまり大きな差はありません。

■昨冬の調査結果との比較■

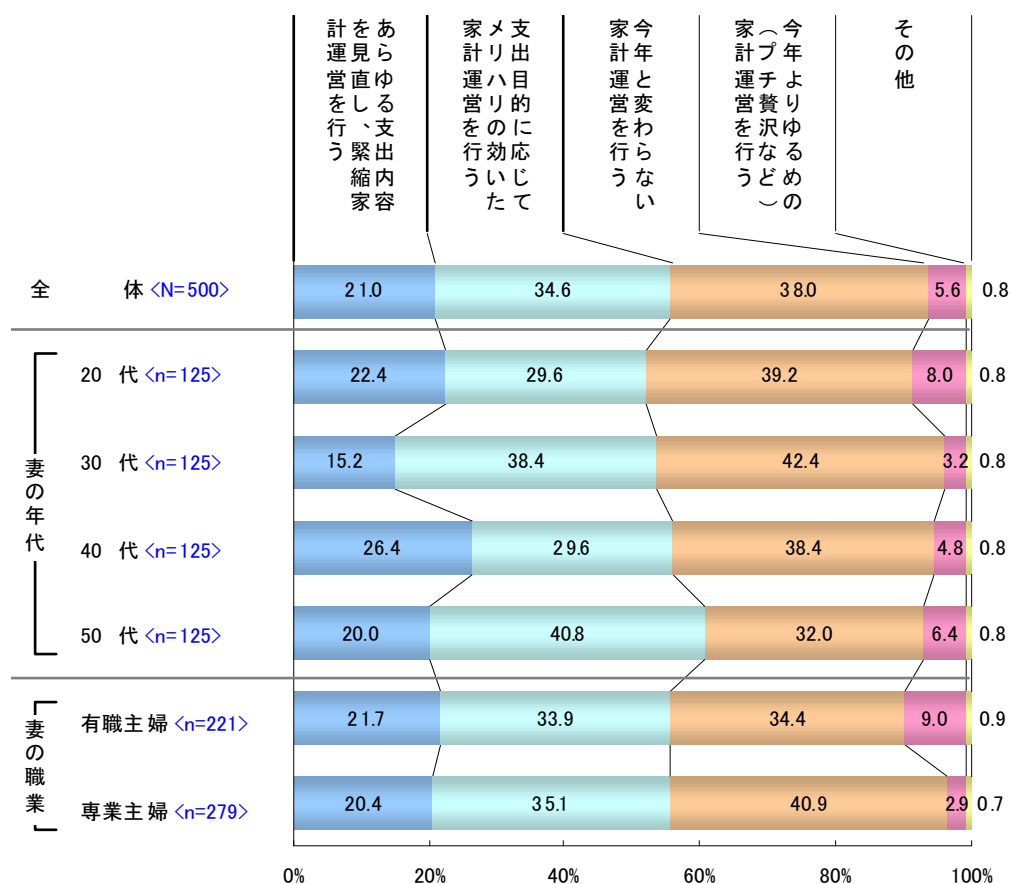
昨冬の調査結果と比べ、“攻めていこうと思う”(24.0%→23.6%)はほとんど変わらず、“守っていこうと思う”(46.8%→42.6%)もやや減っている程度で、総じて大きな変化はありません。

3. 2013 年の家計支出に関して、どんな方針で臨むか

「今年と変わらない家計運営を行う」(38.0%)に次いで「支出目的に応じてメリハリの効いた家計運営を行う」(34.6%)も多く、柔軟な姿勢で臨もうという意識が最も強い。次いで「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」(21.0%)が続き、「今年よりゆめの(プチ贅沢など)家計運営を行う」(5.6%)と、家計をゆめようという人はほとんどいない。

◆見直したい点は、「1)貯蓄を殖やす」(83.5%)、「6)通信販売をうまく活用して必要なものを安く買う」(81.9%)、「11)なるべく家で食事をし、外食を控える」(81.9%)、「2)家計簿をつける」(74.5%)、「8)贅沢品(プチ贅沢を含む)の購入を慎む」(71.6%)など多岐にわたるが、「10)子供の教育費や習い事の費用を減らす」(25.7%)、「12)保険の見直し、解約をする」(31.9%)、「13)ローンの繰り上げ返済をする」(38.1%)などを行いたい人は少ない。

図 25. 2013 年の家計支出に関して、どんな方針で臨むか

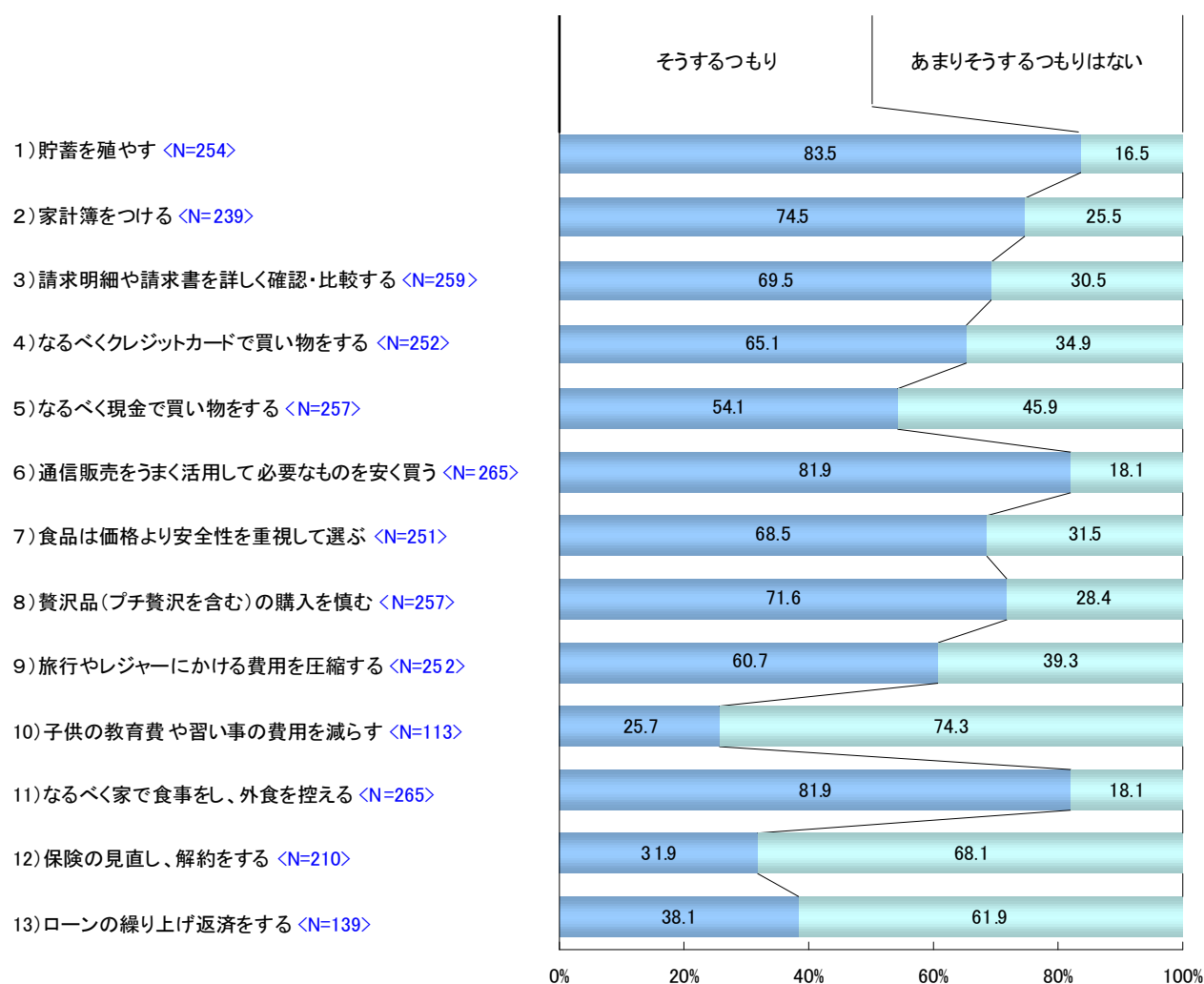


2013 年の家計支出に関して、どんな方針で臨むつもりかをみると、「今年と変わらない家計運営を行う」(38.0%)が最も多いほかは、「支出目的に応じてメリハリの効いた家計運営を行う」(34.6%)も同程度の割合を占め、柔軟な姿勢で臨もうという意識が強くなっています。「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」(21.0%)と「今年よりゆめの(プチ贅沢など)家計運営を行う」(5.6%)とでは前者の方が多く、家計をゆめようという人はほとんどいません。

・妻の年代別にみると、「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」の割合は《30代》(15.2%)で少なめといった差はありますが、全般に大きな傾向の違いはみられません。

・妻の職業別でもあまり大きな差はみられません。

図 26. どのような点を見直したいか（各設問とも、設問に該当する人のみ対象）



「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」「支出目的に応じてメリハリの効いた家計運営を行う」と回答した人に対し、どのような点を見直したいか聞いてみたところ、「1) 貯蓄を殖やす」(83.5%)、「6) 通信販売をうまく活用して必要なものを安く買う」(81.9%)、「11) なるべく家で食事をし、外食を控える」(81.9%)の3項目が8割を超えているほか、「2) 家計簿をつける」(74.5%)、「8) 贅沢品(プチ贅沢を含む)の購入を慎む」(71.6%)、「3) 請求明細や請求書を詳しく確認・比較する」(69.5%)、「7) 食品は価格より安全性を重視して選ぶ」(68.5%)、「4) なるべくクレジットカードで買い物をする」(65.1%)、「9) 旅行やレジャーにかかる費用を圧縮する」(60.7%)、「5) なるべく現金で買い物をする」(54.1%)までの10項目が半数以上となっています。

一方、「10) 子供の教育費や習い事の費用を減らす」(25.7%)、「12) 保険の見直し、解約をする」(31.9%)、「13) ローンの繰り上げ返済をする」(38.1%)の3項目は低い割合にとどまっています。

表 14. 「そうするつもり」の割合（属性別）

（％）

	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)
	貯蓄を殖やす	家計簿をつける	請求明細や請求書を詳しく確認・比較する	なるべくクレジットカードで買い物をする	なるべく現金で買い物をする	通信販売を活用して必要なものを安く買う	食品は価格より安全性を重視して選ぶ	贅沢品の購入を慎む	旅行やレジャーにかかる費用を圧縮する	子供の教育費や習い事の費用を減らす	なるべく家で食事をし、外食を控える	保険の見直し、解約をする	ローンの繰り上げ返済をする
割合（％）													
全 体	83.5	74.5	69.5	65.1	54.1	81.9	68.5	71.6	60.7	25.7	81.9	31.9	38.1
妻の年代	20 代	95.2	81.0	72.6	63.8	55.7	81.0	63.9	64.5	68.3	292	87.5	43.8
	30 代	92.4	77.0	67.7	65.6	50.8	81.3	69.8	67.8	54.2	200	82.5	41.7
	40 代	75.0	75.4	74.2	70.3	61.7	92.2	70.7	80.3	65.0	25.7	87.9	36.1
	50 代	70.5	64.4	63.6	60.6	49.3	74.3	69.6	72.9	55.7	292	70.8	31.4
世帯年収	600万円未満	86.1	78.2	74.8	61.8	60.7	82.1	61.0	77.6	66.3	250	85.8	37.5
	600～800万円未満	91.1	70.4	67.8	58.3	59.0	79.4	71.7	65.0	34.4	83.9	24.0	29.4
	800～1000万円未満	78.7	75.6	66.7	75.0	38.1	83.0	77.3	76.1	14.3	78.7	37.8	39.3
	1000万円以上	72.1	69.2	61.0	71.4	45.2	83.7	73.8	61.4	36.4	250	72.1	52.4

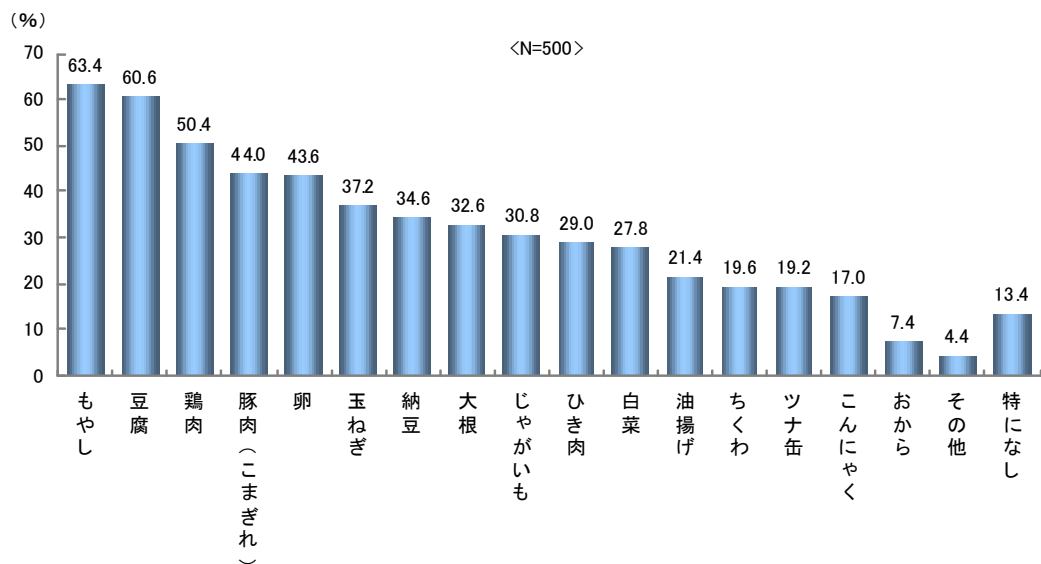
- ・妻の年代別にみると、「1）貯蓄を殖やす」「2）家計簿をつける」は若い人ほど多くなっています。
- ・世帯年収別にみると、「1）貯蓄を殖やす」「2）家計簿をつける」「3）請求明細や請求書を詳しく確認・比較する」「5）なるべく現金で買い物をする」「11）なるべく家で食事をし、外食を控える」などは年収の低い人ほど、反対に「4）なるべくクレジットカードで買い物をする」「7）食品は価格より安全性を重視して選ぶ」などは年収の高い人ほど多くあがる傾向がみられます。

4. この冬、食費を切り詰めるための節約食材、節約メニュー

節約食材は、「もやし」(63.4%)、「豆腐」(60.6%)が6割台で多く、以下「鶏肉」(50.4%)、「豚肉(こまぎれ)」(44.0%)、「卵」(43.6%)などの順。

自慢の節約メニューは、「おからぎょうざ」「おからケーキ」「マーボーもやし」「もやし中華飯」「納豆チャーハン」「ジャガイモのきんぴら」「玉ねぎごはん」「醤油と海苔かけ丼」などがあげられる。

図 27. この冬、食費を切り詰めるための節約食材（複数回答）



妻の年代	20代 <n=125>	68.0	62.4	60.8	44.0	42.4	40.0	38.4	24.0	27.2	26.4	24.0	18.4	14.4	18.4	10.4	5.6	2.4	8.8
	30代 <n=125>	60.8	64.0	46.4	45.6	42.4	33.6	33.6	28.8	32.0	30.4	27.2	18.4	20.0	18.4	18.4	7.2	4.8	14.4
	40代 <n=125>	71.2	60.8	54.4	52.0	49.6	39.2	36.8	39.2	35.2	34.4	31.2	23.2	24.0	21.6	19.2	8.0	3.2	12.8
	50代 <n=125>	53.6	55.2	40.0	34.4	40.0	36.0	29.6	38.4	28.8	24.8	28.8	25.6	20.0	18.4	20.0	8.8	7.2	17.6
世帯年収	600万円未満 <n=210>	66.7	62.4	54.3	45.7	46.2	41.9	35.2	31.9	31.4	29.0	28.1	21.9	22.9	23.3	14.8	6.7	4.8	11.4
	600～800万円未満 <n=126>	66.7	63.5	55.6	50.0	48.4	38.1	36.5	34.1	32.5	28.6	29.4	19.8	17.5	16.7	19.8	7.1	3.2	11.9
	800～1000万円未満 <n=81>	59.3	55.6	46.9	38.3	37.0	34.6	28.4	34.6	30.9	34.6	24.7	22.2	16.0	16.0	18.5	4.9	4.9	11.1
	1000万円以上 <n=83>	54.2	56.6	36.1	36.1	36.1	26.5	36.1	30.1	26.5	24.1	27.7	21.7	18.1	15.7	16.9	12.0	4.8	22.9

この冬、食費を切り詰めるための節約食材は何でしょうか。「もやし」(63.4%)、「豆腐」(60.6%)が6割以上を示し、以下「鶏肉」(50.4%)、「豚肉(こまぎれ)」(44.0%)、「卵」(43.6%)、「玉ねぎ」(37.2%)、「納豆」(34.6%)、「大根」(32.6%)、「じゃがいも」(30.8%)などが続いています。

- ・妻の年代別にみると、総じてあまり大きな差はありませんが、「もやし」「豚肉（こまぎれ）」は《40代》（順に71.2%、52.0%）で多い、「鶏肉」は《20代》（60.8%）で多いといった若干の違いがみられます。

次いで、食費を切り詰めるための、自慢の節約メニューを自由回答で答えてもらった結果をみると、以下のようなさまざまなものがあげられています。

【おからを使ったもの】

- ・おからぎょうざ
- ・おからケーキ
- ・おからコロッケ
- ・おからナゲット
- ・おからハンバーグ
- ・おからメンチ

【もやしを使ったもの】

- ・マーボーもやし
- ・もやしとたまねぎの卵とじ
- ・もやしのお好み焼き風
- ・もやし中華飯
- ・もやし味噌汁

【納豆を使ったもの】

- ・納豆チャーハン
- ・納豆ビビンバ

【ジャガイモを使ったもの】

- ・ジャガイモのきんぴら
- ・ジャガイモのピーマン炒め

【その他】

- ・玉ねぎごはん
- ・醤油と海苔かけ丼
- ・大根の葉っぱの佃煮
- ・ツナ入り肉なし肉じゃが
- ・はんぺんソーセージバーグ
- ・こんにゃくのお刺身
- ・鶏肉のすき焼き
- ・豆腐でかさ増しハンバーグ
- ・白菜のすき焼き風

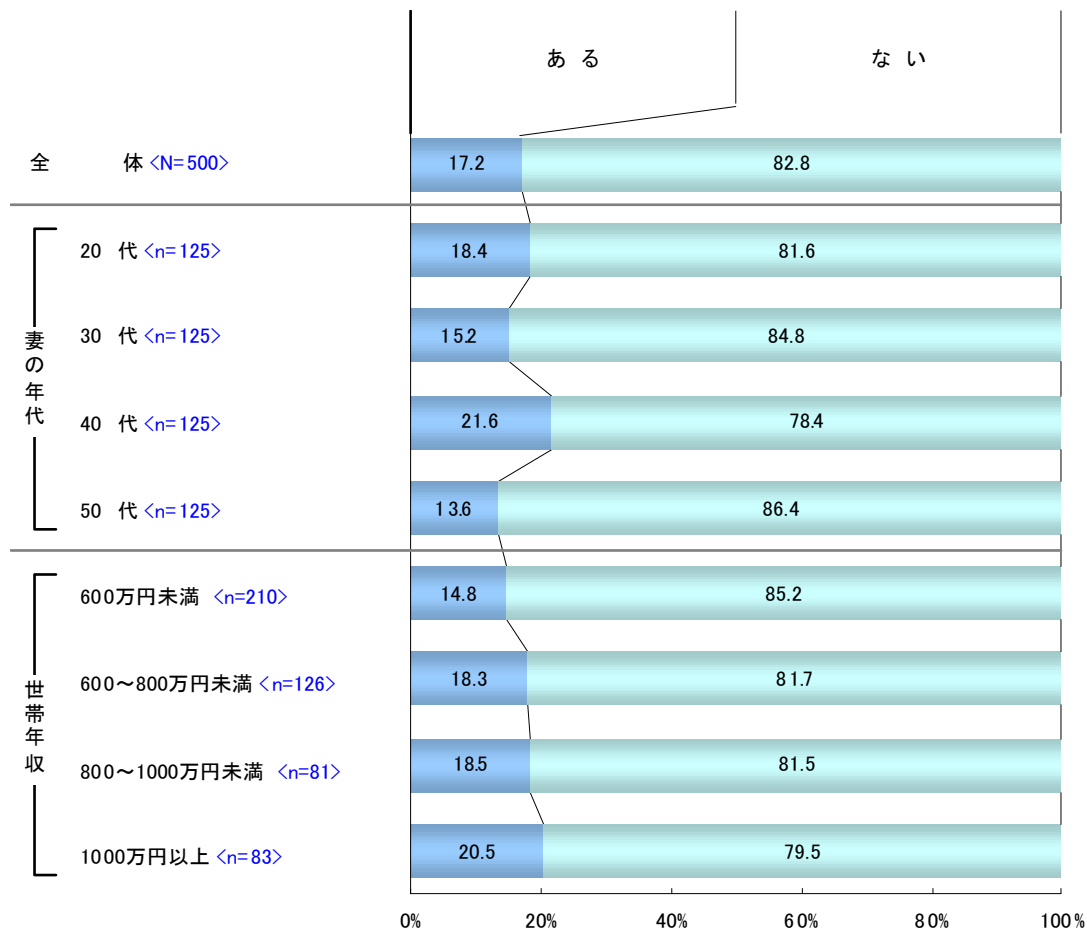
5. 「施設無料見学」の利用経験

利用経験が「ある」人は2割弱(17.2%)。

実際に見学したもの(見学経験者)は、「ビール」(51.2%)が突出して多く、以下「お菓子」(29.1%)、「食品」(14.0%)、「清涼飲料水」(11.6%)など。

今後、最も見学してみたいもの(見学未経験者)は、「お菓子」(21.5%)、「ケーキ・デザート」(10.6%)、「食品」(8.5%)、「ビール」(7.5%)、「天文台・宇宙・近代科学等」(6.3%)など、9割近く(87.9%)の人は何らかの見学してみたいものをあげている。

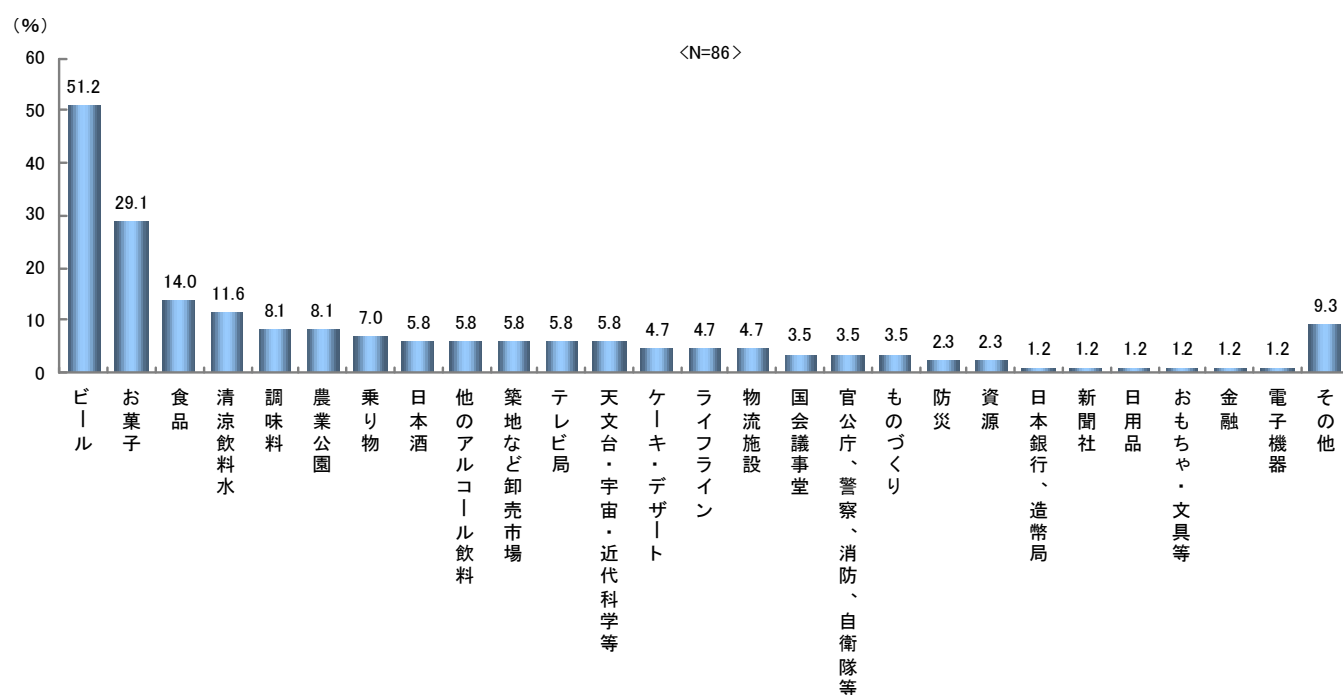
図 28. 工場見学・社会見学などの「施設無料見学」を利用したことはあるか



近年、「無料」で楽しめるとして工場・社会見学が人気を集めています。この「施設無料見学」を利用したことが「ある」人は2割弱(17.2%)となっています。

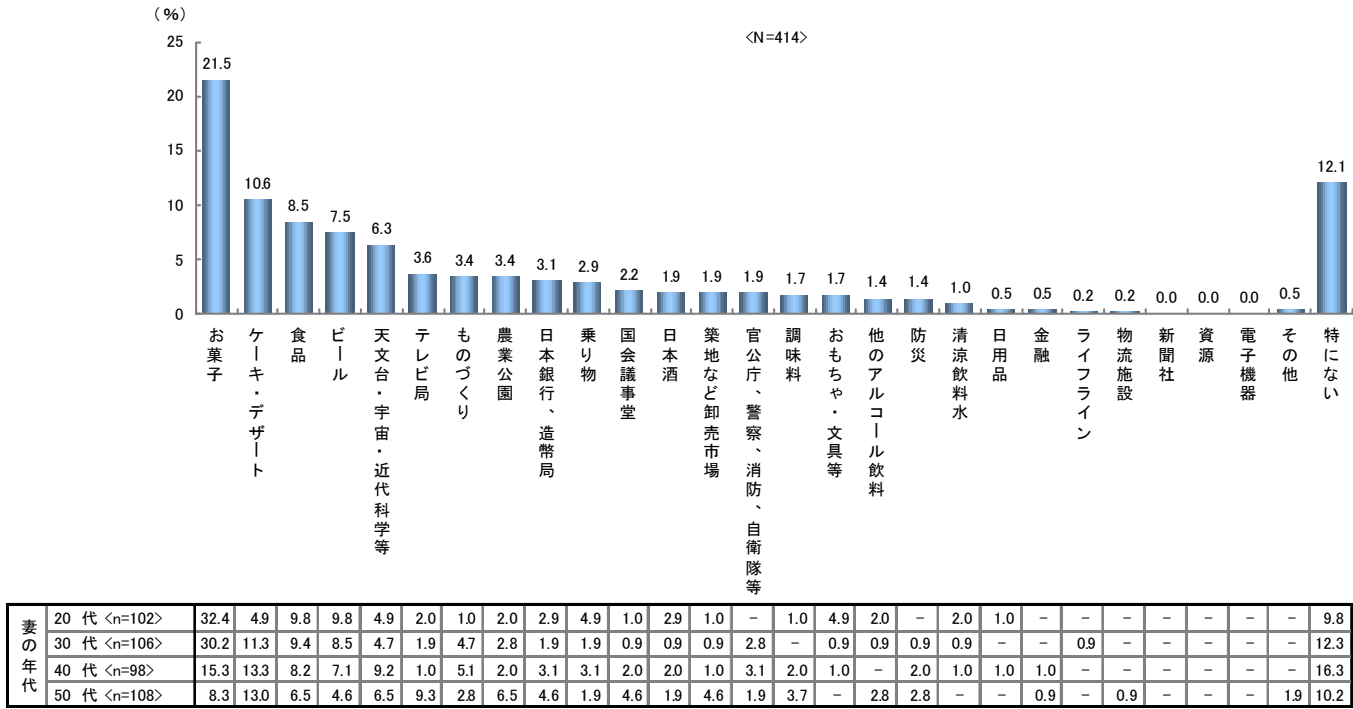
- ・妻の年代別にみると、利用率は《40代》(21.6%)で最も高くなっています。

図 29. 実際に見学したもの（見学経験者）



「施設無料見学」を利用したことが「ある」という人の、実際に見学したものをみると、「ビール」（51.2%）が半数以上を占めて突出して多くなっています。次いで、「お菓子」（29.1%）も3割近くがあげていますが、そのほかは高くても1割台にとどまり、「食品」（14.0%）、「清涼飲料水」（11.6%）、「農業公園」（8.1%）、「調味料」（8.1%）などの順となっています。

図 30. 今後、最も見学してみたいもの（見学未経験者）



「施設無料見学」を利用したことが「ない」という人に、今後、最も見学してみたいものは何か聞いてみたところ、「特にない」（12.1%）という人は1割程度にとどまり、9割近く（87.9%）の人は何らかの見学してみたいものをあげています。最も多かったのは「お菓子」（21.5%）で、2割を超えており、以下「ケーキ・デザート」（10.6%）、「食品」（8.5%）、「ビール」（7.5%）、「天文台・宇宙・近代科学等」（6.3%）などが続いています。

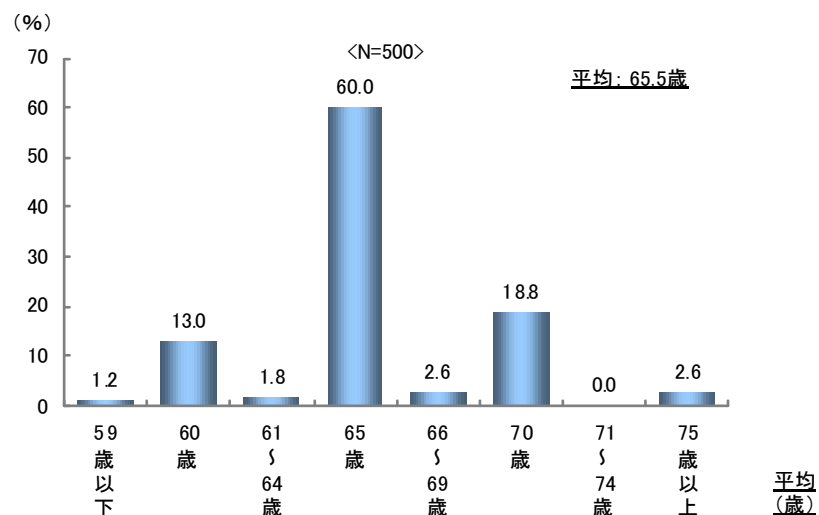
- ・妻の年代別にみると、「お菓子」の割合は若い人ほど高く、《50代》（8.3%）では1割弱、《40代》（15.3%）では1割台ですが、《20代》（32.4%）、《30代》（30.2%）では3割を超えています。

Ⅳ 将来のことについて

1. 夫に何歳まで働いてもらいたいのか

「65 歳」(60.0%)が圧倒的に多く、次いで「70 歳」(18.8%)、「60 歳」(13.0%)の順。平均も「65.5 歳」。

図 31. 夫に何歳まで働いてもらいたいのか



										平均 (歳)
		59 歳以下	60 歳	61 ～ 64 歳	65 歳	66 ～ 69 歳	70 歳	71 ～ 74 歳	75 歳以上	
妻の年代	20 代 <n=125>	0.8	2.4	1.6	60.8	1.6	12.8	-	-	64.5
	30 代 <n=125>	0.8	1.3	0.8	64.8	1.6	16.0	-	2.4	65.3
	40 代 <n=125>	1.6	7.2	-	64.0	3.2	20.8	-	3.2	65.9
	50 代 <n=125>	1.6	8.8	4.8	50.4	4.0	25.6	-	4.8	66.1
妻職の業	有職主婦 <n=221>	0.5	1.4	1.8	59.3	3.6	18.1	-	2.7	65.5
	専業主婦 <n=279>	1.8	12.2	1.8	60.6	1.8	19.4	-	2.5	65.4
子供	いる <n=273>	1.1	10.6	1.5	62.6	2.2	19.4	-	2.6	65.6
	いない <n=227>	1.3	15.9	2.2	56.8	3.1	18.1	-	2.6	65.3
ローン	ある <n=234>	0.9	12.0	0.4	59.4	3.0	22.6	-	1.7	65.7
	ない <n=266>	1.5	13.9	3.0	60.5	2.3	15.4	-	3.4	65.3
世帯年収	600万円未満 <n=210>	0.5	12.9	1.0	65.2	1.9	17.1	-	1.4	65.4
	600～800万円未満 <n=126>	1.6	13.5	1.6	57.1	4.8	19.8	-	1.6	65.4
	800～1000万円未満 <n=81>	2.5	12.3	1.2	56.8	2.5	19.8	-	4.9	65.7
	1000万円以上 <n=83>	1.2	13.3	4.8	54.2	1.2	20.5	-	4.8	65.6

2013 年 4 月から、定年の引き上げもしくは継続雇用（再雇用）で 65 歳までの雇用を確保する法律が施行されますが、夫には何歳まで働いてもらいたいと考えているのでしょうか。

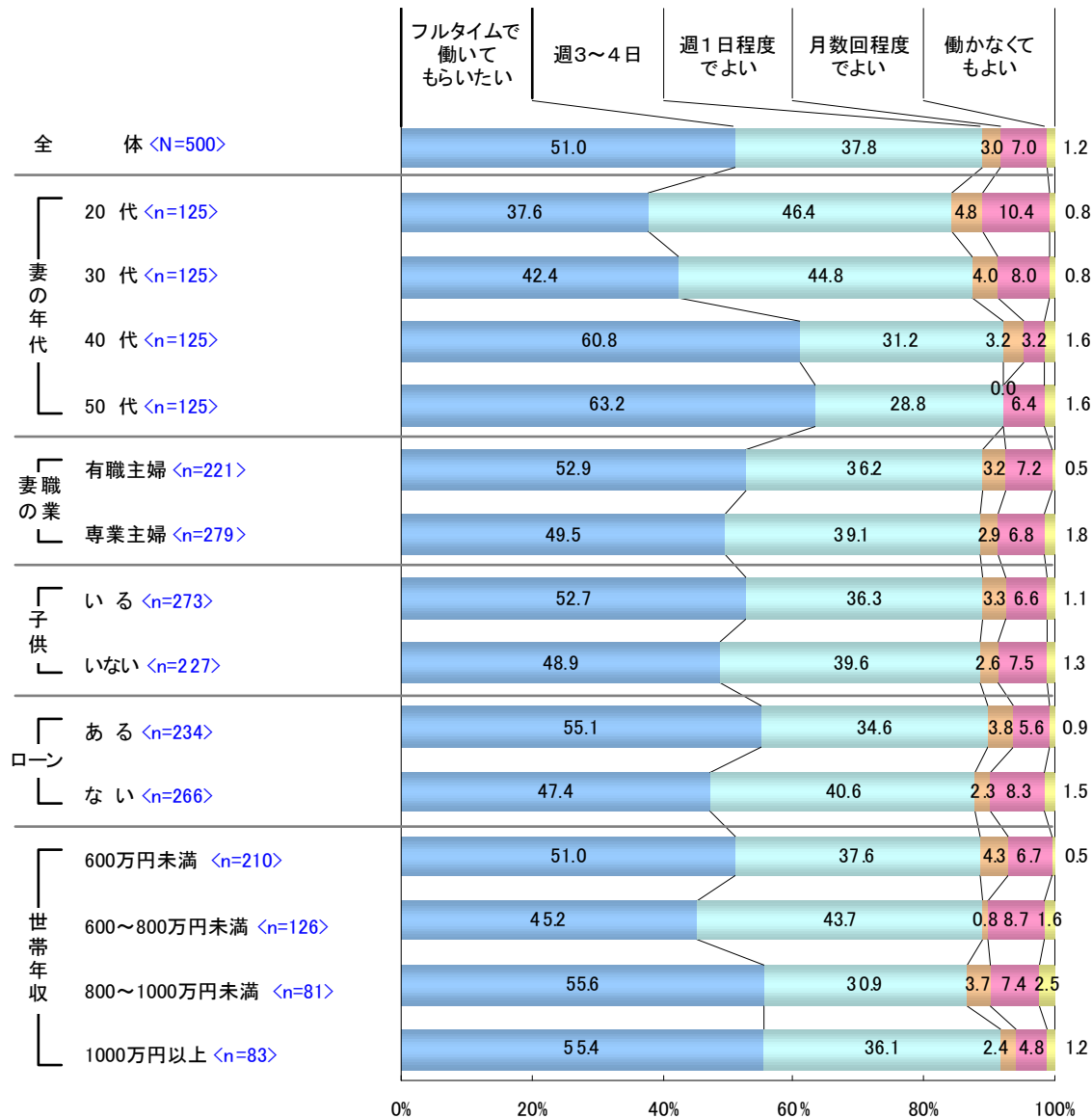
法律の定める「65 歳」が 6 割（60.0%）と圧倒的に多くなっています。そのほかでは「70 歳」（18.8%）、「60 歳」（13.0%）が多く、平均「65.5 歳」となっています。

妻の年代別などの属性別にみても、平均はいずれの層も 65 歳前後で、属性による傾向の差はほとんどみられません。

2. 夫が60歳以上になった時、どのくらいの頻度で働いてほしいか

「フルタイムで働いてもらいたい」(51.0%)や「週3～4日」(37.8%)が多く、60歳になってもまだまだ働いてほしいという気持ち強い。「働かなくてもよい」(1.2%)という人はほとんどいない。

図 32. 夫が60歳以上になった時、どのくらいの頻度で働いてほしいか



夫が60歳以上になった時、どのくらいの頻度で働いてほしいかをみると、「フルタイムで働いてもらいたい」(51.0%)が半数を超えており、次いで「週3～4日」(37.8%)も多く、60歳になってもまだまだ働いてほしいという気持ちが強いことがうかがえます。「週1日程度でよい」(3.0%)、「月数回程度でよい」(7.0%)、「働かなくてもよい」(1.2%)などはいずれも少数となっています。

・妻の年代別にみると、年代が上がるほど「フルタイムで働いてもらいたい」という割合は高く、《20代》(37.6%)では3割台ですが、《40代》(60.8%)、《50代》(63.2%)では6割を超えています。定年の時期が近づいて来ると、甘いことは言っていられなくなるのかも知れません。

・妻の職業別や、独立していない子供（扶養中の子供）の有無別では、大きな差はみられません。

- ・住宅ローンの有無別では、ローンが《ある》人の方が「フルタイムで働いてもらいたい」（55.1%）とする割合が《ない》（47.4%）人に比べてやや高く、やはり住宅ローンの負担は大きいようです。
- ・世帯年収別にみると、《600～800 万円未満》の層で「フルタイムで働いてもらいたい」（45.2%）の割合がやや低くなっていますが、総じて大きな差はみられません。

表 15. 働いてほしい理由（自由回答：件）

順位		件数
1	60歳はまだ若いから／元気なうちは働いてほしいから	67
2	まだ収入が必要なので	66
3	仕事が生き甲斐だから／家にいても暇だろうから	46
4	働く方が健康・ボケ防止に良いから	44
5	毎日はずらくなと思うので適度に働いてほしい	39
6	いつも家にいてもらっても困るから	32
7	年金はあてにならないから	23
8	健康面が心配なので	22
9	少しゆっくりしてほしいから	19
10	子供の学費が必要なので	17
11	ローンが残っているから	15
12	65歳までは年金がもらえないから	14
13	老後の備蓄や子供への資産にしたいため	11
14	一緒に過ごしたいから	5
	今の生活パターンを崩したくないため	5
16	旅行などを楽しみたいので	3
	その他	31

「フルタイムで働いてもらいたい」～「月数回程度でよい」までの“働いてほしい”という回答の人に、その理由を自由回答で答えてもらったところ、「60 歳はまだ若いから／元気なうちは働いてほしいから」（67 件）と“年齢的なこと”、「まだ収入が必要なので」（66 件）、「年金はあてにならないから」（23 件）と“収入面”、「仕事が生き甲斐だから／家にいても暇だろうから」（46 件）、「働く方が健康・ボケ防止に良いから」（44 件）と“本人のため”、などの理由があげられています。また、「いつも家にいてもらっても困るから」（32 件）と“妻の側の事情”も少なくないようです。

表 16. 「働かなくてもよい」と思う理由（自由回答：件）

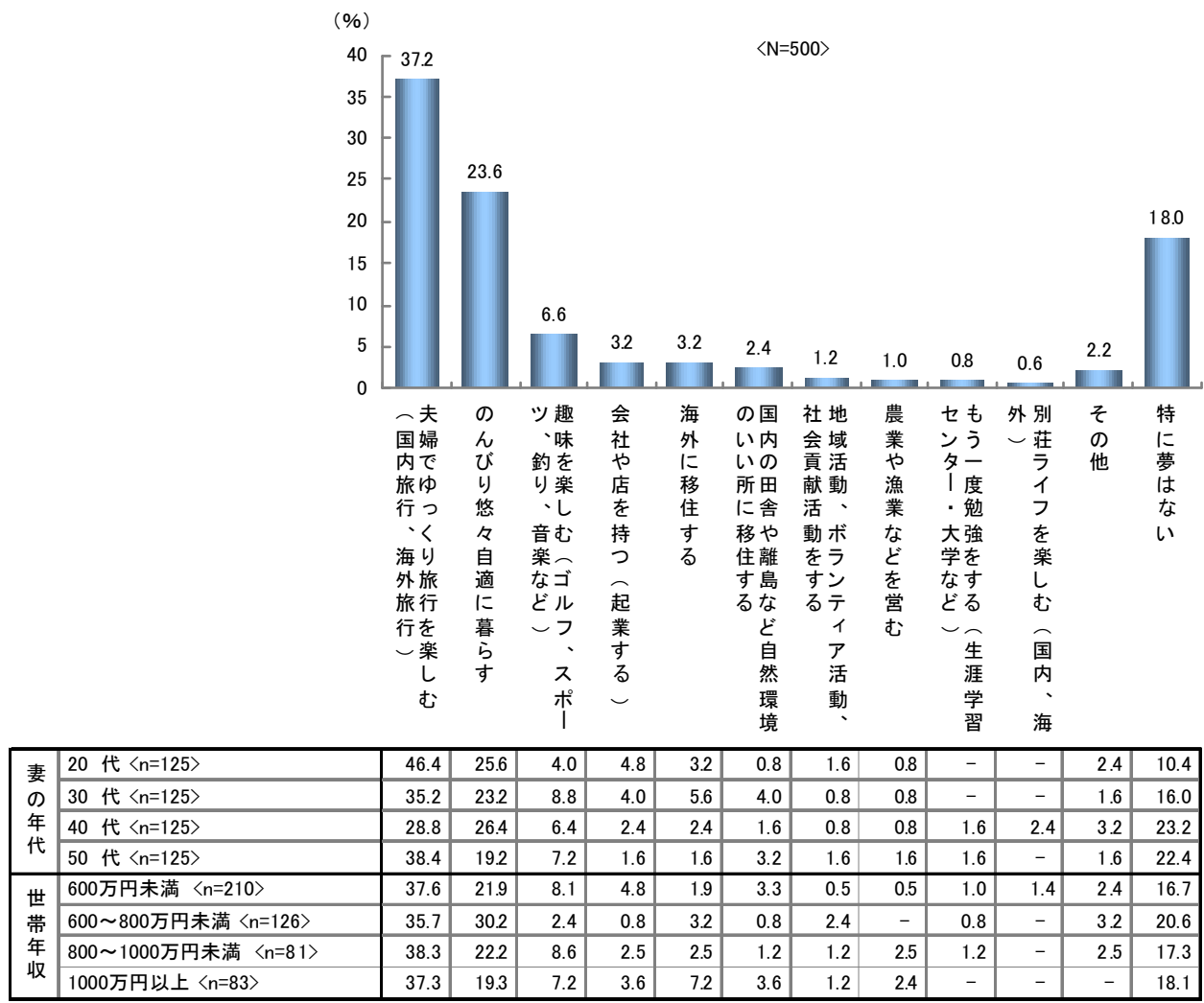
順位		件数
1	十分働いたのでゆっくり休んでほしいから	10
2	今の仕事がつらそうなので	3
	その他	17

一方、「働かなくてもよい」と回答した理由をみると、「十分働いたのでゆっくり休んでほしいから」（10 件）、「今の仕事がつらそうなので」（3 件）と、“本人のため”にそうしてほしいという回答が多くなっています。

3. 夫がリタイアした後の「夫婦の夢」

「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ(国内旅行、海外旅行)」(37.2%)、「のんびり悠々自適に暮らす」(23.6%)という夢を持つ人が多いが、一方「特に夢はない」(18.0%)という人も2割近く。

図 33. 夫がリタイアした後の「夫婦の夢」



夫がリタイアした後の「夫婦の夢」を1つだけあげてもらったところ、「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ(国内旅行、海外旅行)」(37.2%)が最も多く、次いで「のんびり悠々自適に暮らす」(23.6%)が続き、この2つが特に多くなっています。そのほかはいずれも1割以下と少なくなりますが、「趣味を楽しむ(ゴルフ、スポーツ、釣り、音楽など)」(6.6%)、「会社や店を持つ(起業する)」(3.2%)、「海外に移住する」(3.2%)などが続いています。

なお、「特に夢はない」(18.0%)という人も2割近くいます。

- ・妻の年代別にみると、「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ(国内旅行、海外旅行)」はどちらかと言えば若い人ほど多く、一方「特に夢はない」の割合は年代が上がるほど高くなっています。夫婦として年代を重ねるにつれ、「夫婦の夢」を持つことが難しくなるのでしょうか。

- ・世帯年収別ではあまり大きな差はありません。